

同志社グリークラブ第78回定期演奏会

DOSHISHA

College Song

*One purpose Doshisha, thy name
Doth signify one lofty aim.
To train thy sons in heart and hand
To live for God and Native Land.
Dear Alma Mater sons of thine
Shall be as branches to the vine.
Tho' through the world we wander far
and wide,
Still in our hearts thy precepts shall abide.*

*Still broader than our land of birth
We've learned the oneness of our Earth
Still higher than self-love we find
The love and service of mankind
Dear Alma Mater sons of thine
Would strive to live the life divine.
That we may with increasing years have stood
For God, for Doshisha and Brotherhood.*

GleeClub



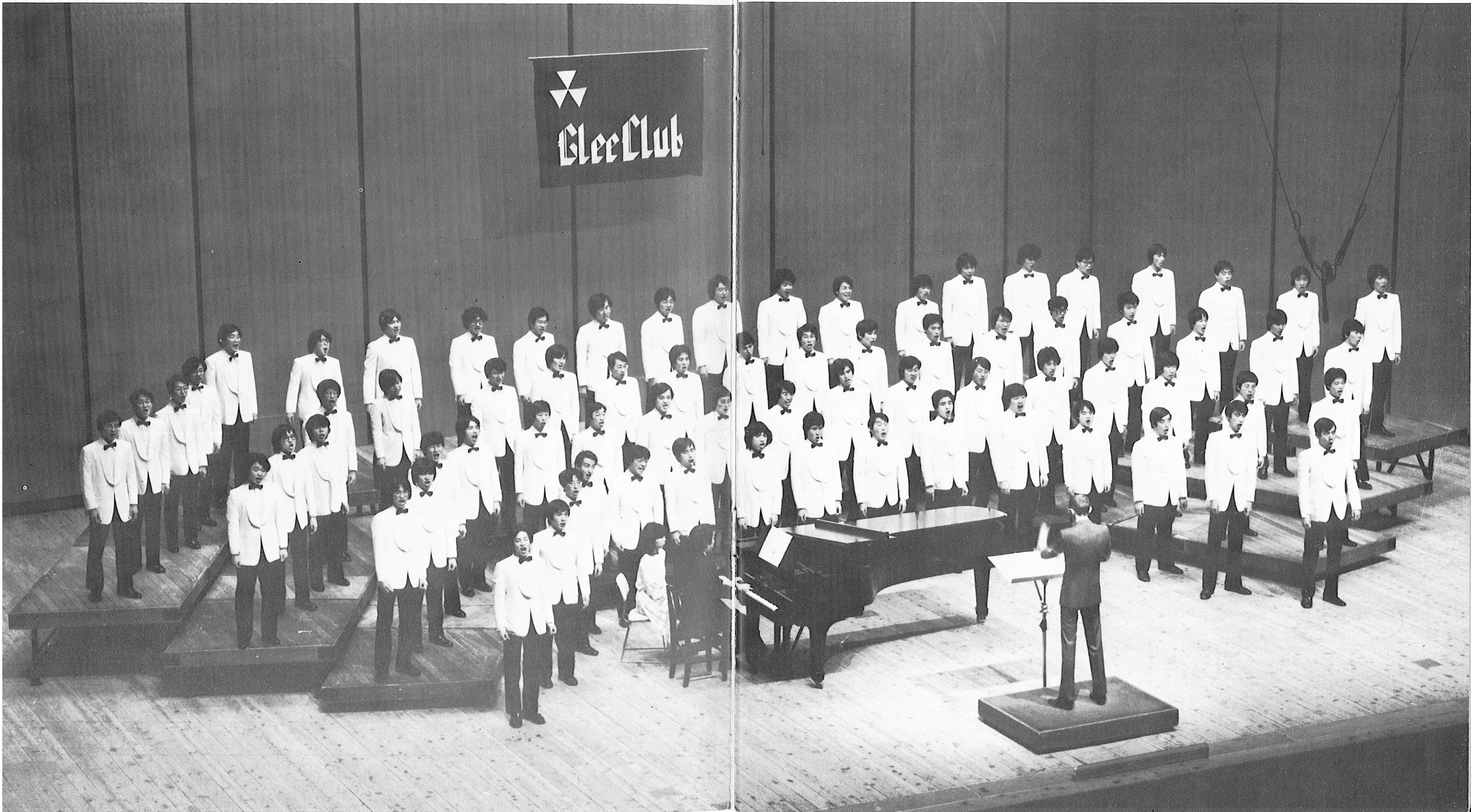
同志社グリークラブ 第78回定期演奏会

1982年12月11日(土) 於:ザ・シンフォニーホール

御挨拶

本日はお忙しい中、同志社グリークラブ第78回定期演奏会にお越し下さり、真にありがとうございます。
今年には同志社グリークラブにとって悲しい出来事がありました。78年前、同志社グリークラブを創られた片桐哲先生が、去る7月3日天に召されたのです。今宵はその悲しみを乗り越え、今年新しく生まれたザ・シンフォニーホールにおいて、皆様に一年の活動の成果をお伝えできますことに部員一同感謝しております。それも日頃から御指導下さる顧問の遠藤先生、音楽のすばらしさを教えて下さる福永先生、富岡先生、大久保先生、そしてOBの方々の御支援のおかげであります。また来年の夏には、同志社グリークラブは、ヨーロッパに演奏旅行に出かけ、本場の音楽に出会ってきたいと思っています。
最後になりましたが、今後も皆様のかかわぬご支援、御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

幹事長 諸江 修



同志社総長 上野直蔵

今宵、同志社グリーンクラブの第78回定期演奏会が、皆様のあたたかい御支援を得て、盛大に開催されますことを心からよろこばしく存じます。

同志社には、学生諸君があい集い豊かな情操を育むため、またより実りある学生生活を送るため、不断の精進を積んでいる音楽団体が数多くあります。その中でもわがグリーンクラブは78年もの歴史をもち、男声合唱としては抜きんでてその演奏が素晴らしく、皆様から御好評をいただいております。演奏活動については、定期演奏会はもとより他大学との交歓演奏会、各地への演奏旅行、たとえば、1974年にはアメリカで開かれた世界合唱祭に日本代表として参加、また1980年には中国への演奏旅行を果すなど、国際的にも大活躍、まことに幅広く、音楽を通して人々の心にさわやかな風を送りこむことに努力を重ねてまいりました。

今夕は合唱音楽をひたむきに愛しこの道に精進してまいりましたグリーンメンが、胸ふくらませ、光を顔にたたえて、日頃の練磨の成果を心ゆくまで歌い、皆さまにご満足いただける演奏を披露してくれるものと信じております。

どうかご来場の皆さまにおかれましては、心耳を傾けて下さるよう、また今後ともご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

同志社グリーンクラブ顧問 遠藤 彰

第78回定期演奏会に

先ごろ超大国の政治的指導者が急死しその国葬が行われた。テレビの画面によると、そのひつぎの行進に当って四方を固めた儀杖兵が腕と足をまっすぐ伸ばして水車のように交互に振り廻しながら行進した。そしてその時の行進曲はショパンのピアノソナタ変ロ短調の第3楽章（いわゆる「葬送行進曲」）からの音楽であった。ポーランドの愛国者ショパンは果して幸いであったであろうか。そしてショパンのこの曲は儀杖兵の機械人形のような行進に相応しいものであったであろうか。わたくしはこれを見ながら、音楽の場というものを考えていた。

われわれのグリーンクラブは今回で第78回の定演を迎える。その歴史はやがて80年になる。この合唱サークルの母胎はいままでもなく107年にわたる同志社の歴史である。同志社は、キリスト教精神を基盤とする同志の結合という精神的団体であり、グリーンクラブはその精神を最もよく体現するサークルである。それでは、ここで演奏される音楽とはどのような音楽であろうか。そして、その演奏は楽曲の解釈や演奏スタイルも含めてどのようなものであるべきか。

同志社グリーンクラブが、その演奏を通して最もよくその精神や理念を表現できる音楽とは、また無数の楽曲のうち同志社グリーンクラブという演奏者を得てその音楽的主張が最もすぐれて表出される音楽とはどのような音楽なのであるか。

片桐・大中両先輩の霊の見まもるなかで、今宵はこのようなことを聞いかけながら、諸君の演奏に耳を傾けることにしよう。

関西合唱連盟理事長・音楽評論家・同志社グリーンクラブOB 日下部吉彦

“このホールで聴きたかった同志社グリーン”

天下の同志社グリーンが、大阪で定期演奏会を開くのは初めてのこと。ちょっと信じられない気がします。もっとも、四連や、関西六連などのステージが、定期的に大阪であるので、大阪のファンが同志社グリーンを聴く機会は、あるわけですが、それにしても、単独の演奏会が、いままでなかったとは不思議です。

今回、《ザ・シンフォニーホール》が完成したのを機に、やっど、それが実現しました。このホールは、すでに御存知の通り、音響の点で、大変好評を得ており、私はとくに、声楽や合唱にこそ好適であると思っているだけに、同志社グリーンが、まっ先に使ってくれることを、大変うれしく思っています。一週あとの19日(日)には、私も、京都エコー演奏会で、客演することになっていますので、きょうの成果に、一層の関心を持っています。

しかも、私が指揮するのが、やはりコダーイの《ミサ・プレヴィス》で、今夜もコダーイがある点は、何かの因縁でしょうか。

そのほか、ハイドン、間宮芳生、三枝成章と、さすがに立派なプログラム・ビルです。大阪定期を、ぜひとも成功させて、今後は、これを定着させるよう望みたいものです。

京都府合唱連盟理事長 吉村信良

いま話題のザ・シンフォニーホールではじめての大学合唱団のコンサートです。同志社グリーンクラブという男声合唱団の名門の音がどのようにひびき、その音楽がこのホールでひとびとにどのように伝っていくか大変興味深いのです。大きな期待もわいて来ます。

「川よどわに美しく」は、今年の「ことばあそびうたⅡ」に引きつづいて、奇しくも同志社、立命館、産大の競演となりました。面白いことです。もしかすると、この三団体のジョイントコンサート以上の面白さが生まれてくるかも知れません。楠君と片桐君（立命メンネル）と、私の方の長尾（産大グリーン）の競い合いともなれば、私も福永、富岡両先生を大向うにまわしてバックアップせねばなるまい。その富岡先生は、間宮芳生のコンボジションⅢを、福永先生はハイドンの「ミサ・プレヴィス」を振られるという。どちらもすてきな音楽性に加えて、抜群のバトンテクニックをお持ちの方だけに、いっばい勉強させて頂きたいと思っております。

最後に、空しい希いとは知りつつもあえてひとこと。「25年振りにコンクールに挑戦してみませんか。」

私はいま、全日本コンクールで広島にいるのです。

演奏会のご成功をお祈りします。

同志社グリーンクラブOB会長 松本寛二

定期演奏会のメッセージと、片桐哲先生の追悼文を同時に書く……。こんなことは、まあ、二度とないことだろうが、先生が召されて後、はじめての定期演奏会のことだし、先生に対する追悼の言葉をプログラムにのせるというのは、とてもいいことだと思ひペンをとった。

きっと、先生も、天上では、はじめて聴く君たちの演奏に、さぞ満足しながら耳をかたむけておられることだろう。その演奏会も、今回が78回目になるという。ということは、同時にそれは、私が、同志社を出て、もう40余年を数えるということになるわけだ。本当に早い。

たまたま、私のグリーン時代に、三十五周年記念演奏会を開き、今春、片桐先生よりひと足先に昇天された大中寅二先生らを招いて聞いたことを思い出すのだが、期せずして、今年は、私たち同志社グリーンメンにとって大きな存在でもあり、自慢のタネだった二大巨人を失ってしまったわけだ。その意味からも、どうかこのお二人の大先輩にこたえる演奏会であってほしい。しかも、その会場も、新装なったばかりのザ・シンフォニーホールという。日本一といわれるそのホールのステージから、必ずや、すばらしい同志社グリーンのハーモニーがしかも力強く会場いっぱい、いや、大空に向かって声高かくけめぐることだろう。大きな期待をもって、私も久しぶりに東京からかけつけようと思っている。

立教大学グリーンクラブ

第七十八回定期演奏会おめでとうございます。私共部員一同、心から御慶び申し上げます。

さて、私共は貴団と姉妹校という栄誉ある関係にあずかっており、同志社・立教交歓演奏会という素晴らしい伝統もあるわけですが、来年は第二十二回の交歓演奏会が開催される運びとなり、ここ二年間双方の事情により途絶えていたこの伝統を、再び生きたものに出来ることを、心から嬉しく思います。これを契機に、以前にも増して両校・両クラブの友好関係を親密になることを期待して居ります。

話は変わりますが、貴団は、来年度にヨーロッパ演奏旅行を計画なさっていると御聞きしておりますが、今回の定期演奏会の成功が、必ずや来年度の大計画のステップとなることと信じて居ります。私共も貴団のよき同朋、かつ、よきライバルとして、今後共精進を重ねてゆきたいと思ひます。

それでは最後になりましたが、貴団が今後益々御発展・御活躍なさいますことを、神の御下に御祈りしつつ、挨拶と代えさせていただきます。今宵の同志社グリーンクラブの演奏会の御成功を心より願ってやみません。

早稲田大学グリーンクラブ

第78回定期演奏会の御開催を部員一同、心よりお慶び申し上げます。

今年から大阪の地で、それも今噂さのザ・シンフォニーホールで演奏会をなさると言うことで、新たな局面を迎える貴団の動向は、私共早大グリーンメンの注目のマトです。同志社グリーンクラブと言えば、近年東西四連の中では部員数はやや少ないものの、それだけにひとりひとりが責任感あふれる歌いっぷりで、各ステージを完全燃焼する合唱団というイメージがあります。合唱団たるもの、そうであって当然なのでしょうが、その平凡なことを平凡にやる点において、同志社グリーンは非凡なのだと思います。部員数においても、今年は頼もしい新入生をたくさん獲得されたとのこと、この点からも今までひと味違った同志社グリーンの演奏が今宵は聴けるかも知れません。

何はともあれ、貴団と私共とのお付き合いも30余年。毎年一度、四連というステージを共にする度に、東京と京都という距離の隔りを越え、同じ男声合唱に携わる喜びと、素晴らしいライバルをもっている幸福とを再認識し、日頃の我々の練習のたいなる支えとなっております。

私共は貴団の合唱への真摯な態度、情熱、高度な技術に対し、日頃から敬意を抱いております。今宵は、貴団の日頃の練習の成果が最大限に発揮されますよう、今後の御発展と共に、心よりお祈り申し上げます。

慶應義塾ワグネルソサイエティー男声合唱団

第78回定期演奏会をむかえられます皆様に、ワグネリアン一同心よりお祝い申し上げます。

実は今夕、私達も東京に於きまして定期演奏会のステージに立っております。従ってまことに残念なことではございますが、皆様の演奏を実際に拝聴させていただけないわけですが。

美しい音楽を求め心には、さまざまな試みが伴うものです。皆様にとりましては、古巣京都、を離れ、大阪のザ・シンフォニーホールに於いて定期演奏会を催すということこそ、その最たる例でしょう。中には冒険であるという心ない声もあるでしょう。ですが私達は同じ歌う仲間として、皆様の貧欲なまでの美しい音楽を追求する心を賞賛します。また今宵の演奏曲目——これほど本格的なプログラムビルディングはめったにありませんから——にも、皆様の欲求のほどばしりを感じないわけにはまいりません。この心こそ多くの先輩方が築き、そして受け継がれて将来に伝えねばならない同志社グリーンの伝統の本質的なのではないのでしょうか。

今宵、私達は東京で情熱を爆発させます。皆様は大阪で、心の底から歌って下さい。私達の「音楽する心」によって、日本中を振動させようではありませんか。

最後になりましたが、今宵の演奏会の御盛會と、同志社グリーンクラブの今後のますますの御発展とを、心よりお祈り申し上げます。

関西学院グリーンクラブ

同志社グリーンクラブの皆様、第78回定期演奏会おめでとうございます。

私共関西学院グリーンクラブにとりまして同志社グリーンとは東西四連、関西六大学合唱演奏会、同関交歓演奏会など最も親しくおつき合いさせていただいております。

私共はいつも同志社のメリハリのあるカの入った演奏に男声合唱の魅力を満喫させられます。それゆえにクラブ内の同志社グリーンのファンに驚かされます。自分のクラブはそっちのけて同志社グリーンに夢中になっているのには困ったものです。貴団の存在は頼もしく、そして瞳がれのまどであり、時には嫉妬することもあります。とにかく私共にとって貴団はなくてはならない存在なのです。

また周囲も常に同志社と関学はあらゆる面（もちろん学業も？）で比較したがる傾向があり、もはや宿命的なものでありましょう。

さて本日は私共全員で貴団の演奏会を拝聴にまいります。今宵この素晴らしい新ホールに響きわたる同志社グリーンを想像するだけで胸が躍るようです。きっと私共のみならず多くの聴衆を魅了させることでしょう。

さて来年は同関交歓演奏会が行なわれます。今宵の演奏会を刺激に私共は同志社の方々と一緒に、素晴らしい演奏会をもてるように努力していきたいと思ひます。最後に本日の演奏会が御盛會となり、今後益々の御発展をお祈り申し上げます。

I. MISSA BREVIS
IN HON. ST. JOANNIS DE DEO In B dur

〈小オルガン・ミサ曲〉

1. Kyrie
2. Gloria
3. Credo
4. Sanctus
5. Benedictus
6. Agnus Dei

作曲 Joseph Haydn
～生誕250年記念～

編曲 Ferdinand Habel

指揮 福永陽一郎
ソプラノ 坂口茉莉
オルガン 津田能人
オーケストラ アムジー室内合奏団

II. 「合唱のためのコンポジションⅢ」

1. 鱸
2. 羯鼓
3. 引き念佛

作曲 間宮芳生

指揮 富岡 健

— INTERMISSION —

III. 男声合唱組曲「川よとわに美しく」

1. 釈哲道童子
2. 永遠の川
3. 荒廃に立ちて
4. 静脈の川
5. 川よとわに美しく

作詩 米田栄作

作曲 三枝成章

指揮 楠 敏也

ピアノ 長田育忠

シンセサイザー 新町峰雄

IV. 「コダーイ男声合唱曲集より」(全4曲)

1. Isten Csodája
2. Fölszállott a Páva
3. Mulató Gajd
4. Karádi Nóták

作曲 Kodály Zoltán

～生誕100年記念～

指揮 富岡 健

聖ヨハニス・デ・デオのミサ・ブレヴィス

ケルンの「ヨーゼフ・ハイドン研究所」が出版したロビンズ・ランドン博士の監修による「ハイドン作品全集」に基づいて、ペーレンライター社が一般向きに出した、この「小オルガン・ミサ」の原典版楽譜には、この曲が作曲されたときの由来が、いくらか述べられている。それによると、ハイドンは「慈善兄弟団」という宗教団体と親しくしており、いくつかの小さな教会音楽作品を、その「慈善兄弟団」のパトロンであったヨハニス・デ・デオ（神のジョン）と呼ばれるポルトガル人の修道僧に献呈したそうである。

現在、ウィーンの楽友協会に保存してあるこのミサ曲の手稿には、作曲した年月日が記されていない。ハイドンとしては滅多に無いことである。ハイドンが記したタイトルは、「In Nomine Domine Missa brevis St. Joannis de Deo, di me Giuseppe Haydn mpria」である。筆跡や使用記号から類推すると、1775年の作曲であることに間違いはないという。1778年に、ゲットヴァイク修道院で、オルガン・ソロのあるハイドンの新作のミサがハイドン自身の独奏で演奏された記録が残っている。

18世紀半ばにおける、オーストリーや南ドイツの「ミサ・ブレヴィス」の形式は、極端に実用的になっており、時間を短縮するのが目的で、同時に二つ以上の声部が異った歌詞をうたうように作曲された。この曲では、「グローリア」と「クレド」の2曲で、この方法が採用されており、両方とも、急速なテンポの部分で、四つの声部が別々の歌詞を同時進行でうたうように書かれているのがオリジナルである。そのとおり演奏されると、時間は大幅に短縮されるが歌詞のきき取りは不可能である。（ミサの通常文など、先刻後刻御承知、聞きとる必要なしと言われれば、それまでであるが）

曲のほうを引き延ばして、普通の場合と同じように、通常文の歌詞を、順番にうたうようにする試みは、かなり以前から為された。「全集版」には、ヨーゼフ・ハイドンの実弟のミハエルによって拡大された「グローリア」が付録として載せられている。

本日、同志社グリークラブが演奏する版は、「グローリア」と「クレド」の両曲で、同じミサの中の他の曲、たとえば「アニス・デイ」の一部を借用したり、あるいは一区分のくり返しを行ったりして、普通の順で通常文をうたえるようにしたもので、編曲者は、Ferdinand Habel という人。この人は、ウィーンの聖シュテファン大聖堂のカペルユイスターだった人である。男声合唱版が最初につくられ、Otto Jochum という有名な合唱指揮者が、混声版と少年合唱（女声）版に合唱パートを作成した。初版は、1958年に出され、出版元はアウグスブルグのアントンベーム社である。

「グローリア」と「クレド」以外の章は、ごく普通の形式で書かれており、「ベネディクトゥス」は、逆に、最大限に拡大され、オルガンの独奏とソプラノの独唱によって演奏される。オーケストラは、二部のヴァイオリンと通奏低音だけで、ハイドン＝モーツァルト時代の、一般に「ウィーンの教会トリオ」様式と呼ばれる編成である。

エステルハーツ家の礼拝堂のオルガンは、おそらくはハイドン自身が弾いてこの曲を初演したに違いないと思われるが、現存していて、それは、輝やかな音色のバロック様式のポジティブ・オルガンで、ペダルを持っていない。当時のオーストリアではペダルが無いのが通常で、バッハが用いたようなペダルの技巧は、北ドイツの様式である。

このミサ曲は、「小オルガン・ミサ」という愛称を持っている。ハイドンには、変ホ長調の「大オルガン・ミサ」と呼ばれる曲があるので、この規模の小さいほうの、同じようにオルガン独奏部を持つミサが、Grosse に対して Kleinleine と呼ばれたわけである。「大オルガン・ミサ」のほうは、ミサ・ブレヴィスではなくて、ミサ・ソレムニスである。

モーツァルトにも、ザルツブルグ時代に作曲した「小オルガン・ミサ」がある。また、年代が下って、オルガンだけで演奏する（歌のパートを持たない）ミサ曲を作曲した人に、フランツ・リストやソルタン・コダーイがいる。リストの「オルガン・ミサ」には、チェコのモラヴィア出身の作曲家レオシュ・ヤナーチェクがうたえるように編曲したものが、コダーイのは、作曲者自身、同じ曲を合唱用に編成したものもある。

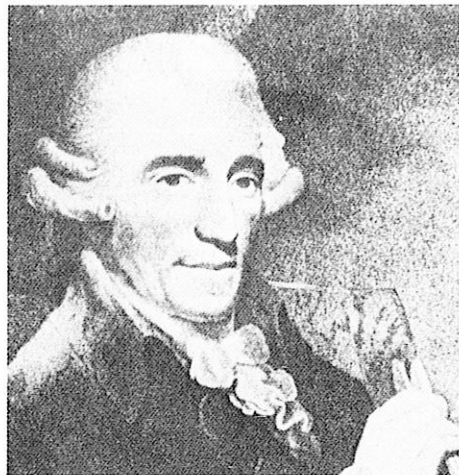
ハイドンのミサ曲は、全部で13曲あったが、うち2曲の楽譜は消失してしまったままである。第一期の1770年代までに4曲が作曲され、「ヨハニス・デ・デオのミサ・ブレヴィス」はこの中の1曲である。1780年には「マリアツェル・ミサ」の1曲のみ。そのあと、ハイドンの晩年にあたる1790年代の後半以後に、6曲の大きなミサを書き上げている。それぞれ、「パウケン・メッセ」「ハイリッヒ・メッセ」「ネルソン・ミサ」「テレジア・ミサ」「天地創造ミサ」「ハルモニイ・メッセ」という呼び名がついているものがそれで、ハイドンが完成した交響曲の様式が、声楽作品として結実している、堂々たる大音楽である。

ハイドン（やモーツァルト）の、明朗で晴れやかなミサ曲は、19世紀の間、萎縮した宗教音楽観によって、きびしく糾弾されたものであるが、20世紀の後半、むしろその天真爛漫さが歓迎されるようになった。ハイドンは『私は、神様のことを考えると、与えて下さったものに対する感謝で嬉しさがいっぱいになってしまうのです。』と言っている。

註1) patron saint=聖職授与権所有者

註2) オリジナルは少年合唱と男声

註3) ハイドンが仕えたハンガリーの侯爵



Joseph Haydn
(1732—1809)

Kyrie

Kyrie eleison,
Christe eleison,
Kyrie eleison.

主よ、あわれみたまえ
キリストよ、あわれみたまえ
主よ、あわれみたまえ

Gloria

Gloria in excelsis Deo. Et in terra pax hominibus bonae voluntatis. Laudamus te, benedicimus te, adoramus te, glorificamus te. Gratias agimus tibi propter magnam gloriam tuam. Domine Deus, Rex coelestis, Deus Pater omnipotens.

天にいます神には栄光が、そして地上では心の良い人たちに平和がありますように。私たちはあなたをほめ、あなたを祝福し、あなたを崇め、あなたを讃え、あなたの大きな栄光に感謝を捧げます。主である神よ、天の王よ、全能の父である神よ。

Domine Fili unigenite, Jesu Christe. Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris. Qui tollis peccata mundi, miserere nobis, Qui tollis peccata mundi, suscipe deprecationem nostram. Qui sedes ad dexteram Patris, miserere nobis.

ただ一人の御子であられる、主なるイエス・キリスト、主なる神、神の小羊、父の御子、この世の罪を除きたもう方よ、私たちをおあわれみ下さい、この世の罪を除きたもう方よ、私たちの謝罪をお受け下さい。神の右側にお座りになられるお方よ、どうぞ私たちをおあわれみ下さい。

Quoniam tu solus sanctus. Tu solus Dominus. Tu solus altissimus, Jesu Christe, cum Sancto Spiritu, in gloria Dei Patris. Amen.

なぜなら、あなただけが聖く、あなただけが主なる方で、あなただけが最も高い方だからです。聖霊を従え、神の栄光に包まれたイエス・キリストよ。アーメン

Credo

Credo in unum Deum, Patrem omnipotentem, factorem coeli et terrae, visibilium omnium et invisibilium.

私はただ一人の神、全能の父、天と地の創造者、すべての目に見えるもの、目に見えぬものの創造者であられる方を信じます。

Et in unum Dominum Jesum Christum, Filium Dei unigenitum, et ex Patre natum ante omnia saecula. Deum de Deo; Lumen de Lumine; Deum verum de Deo vero; genitum non factum; consubstantialem Patri, per quem omnia facta sunt. Qui propter nos homines, et propter nostram salutem, descendit de coelis.

そしてただ一人の主なるイエス・キリスト、ただ一人の神の御子で、すべての世紀の始まる前に神よりお生まれになり、神から生まれた神、光から生まれた光、真の神から生まれた真の神であられる方を信じます。この方は神からお生まれになったのであって、神がお作りになったものではなく、神と同質で、この方をおして、すべてのものは作られました。

Et incarnatus est de Spiritu Sancto, ex Maria Virgine; et homo factus est. Crucifixus etiam pro nobis; sub Pontio Pilato passus et sepultus est.

この方は、私たち人間のために、人間を救済するために、天よりお降りになり、聖霊の手によって処女マリアより肉体を受けられ、人間となりました。そして私たちのために、十字架にかけられました。ポンティウス・ピラテのもとに受難し、埋葬されました。

Et resurrexit tertia die secundum Scripturas; et ascendit in coelum; sedet ad dexteram Patris; et iterum venturus est cum gloria iudicare vivos et mortuos; cujus regni non erit finis.

そして三日目に、聖書に従って復活されました。そして昇天され、神の右にお座りになりました。そしてやがて栄光と共に、生きている者と死んだ者とを裁くために再びお出でになります。この方の御代は終ることがありません。

Et in Spiritum Sanctum, Dominum et vivificantem; qui ex Patre Filioque procedit. Qui cum Patre et Filio simul adoratur et conglorificatur; qui locutus est per prophetas. Et unum Sanctam Catholicam et Apostolicam Ecclesiam. Confiteor unum Baptisma in remissionem peccatorum et expecto resurrectionem mortuorum, et vitam venturi saeculi. Amen.

そして私は、主であって、生命の創造者である聖霊を信じます。聖霊は神と御子より出て、神と御子と共に、崇められ、たえられます。そして預言者の口を借りて、お話しになります。そして私はただ一つの聖なる、普遍的で、伝導的な教会を信じます。私は罪を除くためのただ一つの洗礼を信じます。そして死んだ者の復活を期待し、この次の世の生活に期待します。

アーメン

Sanctus

Sanctus, Sanctus, Sanctus, Dominus Deus Sabaoth.
Pleni sunt coeli et terra gloria Tua.
Hosanna in excelsis.

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の主なる神は。
あなたの栄光は天と地に満ちています。
天の高いところにホザンナを。

Benedictus

Benedictus qui venit in nomine Domini.
Hosanna in excelsis.

主の御名のもとに来るものは祝福されるだろう。
天の高い所にホザンナを。

Agnus Dei

Agnus Dei,
Qui tollis peccata mundi, miserere nobis.
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:
Dona nobis pacem. Amen.

この世に罪を除きたもう神の小羊よ、私たちをおあわれみ下さい。
この世の罪を除きたもう神の小羊よ、私たちに平安をお与え下さい。アーメン

「合唱のためのコンポジションⅢ」

間宮芳生の「合唱のためのコンポジション」のシリーズは、1958年に第一番が発表されて以来、昨年においては、NHK大阪委嘱・京都エコー初演による「オンゴ・オーニ」と題された第十番が発表されるまでにいたっている。23年間で十作というのは数の上では多くないにしても、間宮のライフワークとして定着した感がある。

このシリーズが始められたのは、民謡の中に多く含まれている多様なハヤシコトバの音楽像を分類整理しようという作業がきっかけとなり、その作業が進められるよりも早く無伴奏混声合唱のための第一番ができあがってしまった、という背景がある。したがって、これら一連の作品は日本の民族音楽に深くかかわりあいをもっていることはいまでもない。独自の手法は日本の民族音楽の新しい表現法であり、西欧にはみられない独創的な合唱音楽の誕生であったと同時に、音楽の世界に新しい視野を開いたものといえる。

民族音楽の常として民謡を素材としていることはいまでもないが、間宮芳生は、ただたんにそれらを合唱用に編曲しようなどというのではなく、民謡という素材の中の日本の民族的な音楽性を抽出し、それを契機に新しい創作をおこなおうとしているのである。また、歌詞は人声を効果的にひびかせるためのシラブルにしかすぎないという扱ひも大きな特徴である。これらの言葉の多くはハヤシコトバやトナエゴトであり、まったく意味をもたないわけだが、それらが持つ独特の響きや、エネルギーが日本の民族性そのものとして、直接我々に伝わってくる。

このシリーズは日本の伝承音楽を素材にして、現代の音楽によみがえらせただけのものではない。我々はこの複雑な音の世界の中に「力」をも聴きとることができる。間宮は次のような言葉をのべている。

『新しい民族的な音楽のことは創造のとりでとして、ことばと音楽の交点を民族遺産の種々相の中に求め、民族芸能、民謡の中に多様な姿でちりばめられ、音楽とことばの交わりの生理を最も根源的な姿であらわしているハヤシコトバに魅せられて出発したこのシリーズだが、すべての作品に、自己コントロールの能力としての、内側の自然を失って肥大化した人間によって暴走する文明、現実世界への批評がこめられることになった。ほくが民俗とのかかわりの中でずっと追いつけているのは、人間の内なる自然なのだと思う。人間世界の現実が見える以上は、このシリーズは、これからも書きつづけるだけだということである。』 (K.T)

〈略歴〉

間宮 芳生 (まみや みちお)

作曲家

1952年 東京芸術大学作曲科卒業

日本の伝統音楽に根ざした作品を数多く発表し、尾高賞、毎日音楽賞など多くの賞を受賞、日本を代表する作曲家である。また、氏のライフワークである「合唱のためのコンポジション」は10曲を数え、今回の「オンゴ・オーニ」は、第7番「マンモスの墓」につづいて2度目の文化庁芸術祭大賞に輝いた。

尚、氏の男声曲は他に第6番がある。



間宮 芳生

第一曲 「鱈」

秋田県河辺郡浜田村の 鱈漁の唄

〈出船の鱈唄〉

(音頭) オヒコ (受声) オヒコ (音) ソラエ (受) オヒコ (音) ヨイヨ (受) オヒコ (音) ソラエ (受) オヒコ、オヒコ、オヒコ (一同) ヨイサイヨイサ。

〈網起し〉

(音頭) ア、ドッコイドッコイシヨ (受声) ア、ドッコイドッコイシヨ (音) イヤドッコイドッコイシヨ (受) アラドッコイドッコイシヨ (音) アラエー今こそ御座ったヨー (受) ヤアトコセヨイヤナー (音) 今こそ御座った方両箱ヨーイトナ (受) アライヤアラアラドッコイ、ヨイトコ、ヨイトナ (音) アラエー一富士二鷹ヨエー (受) ヤアトコセヨイヤナ (音) 三に平山四に鳥海ヨーイトナ (受) アライヤ、アラアラドッコイ、ヨーイトナ。

この唄は北海道方面に出稼ぎした漁夫によって逆輸入されたものと思われる。また海に生きる漁民の仕事唄だけにあらわれる「激しいカケ合い」や「音頭・一同」の形式がみごとに生かされている。鱈(ハタハタ)は北日本海に産する魚で、殊に秋田県の名物魚として知られ、冬になって吹雪時に雷鳴があると海岸近くに群遊して来るので、ハタハタ、又はカミノリ魚と呼ばれる。

第二曲 「羯鼓」

福島県相馬郡大野村の田打唄

九ツ黄金ノ蔵主様八四四四五トモ見エルトサア。

「羯鼓」は、北陸の田植唄と、東京都下の古い神楽とが素材となっている。「羯鼓」とは、寺社芸能などにしばしばある、儀式のプログラムの「入端」「出端」「かまくら」「羯鼓」等々の中の「羯鼓」をとって名づけられた。相馬郡大野村地方ではシホンコと称する四本歌で田を鋤返す時にうたわれたもので、勿論これは多勢でコヒで仕事をする時に仕方の歩調を揃える為に用いられたのである。奥羽では昔は皆この歌一本の労働であった。

第三曲 「引き念仏」

岩手県和賀郡岩崎村の〈鬼剣舞〉の〈引き念仏〉および〈センヤ念仏〉の口唱歌が素材である。

岩手県の芸能を代表するものの一つに「山伏神楽」があるが、神楽にかぎらず他の芸能にも山伏の手が入った形跡があり、剣舞各種の巻物の内容や踊りの技法にもうかがうことができる。「鬼剣舞」などは、本来念仏踊りであったものが、舞台的な演出が主となり、一人狂い、二人狂い、三人狂いなどの狂い踊りの激しい表現をとり入れるなど、明らかに山伏の荒行を思わせるものがある。旧南部藩の民謡の中に、結婚や新築などの祝儀にうたわれる「御祝い」という曲があり、その中のセンヤーという歌い出しは明らかに早池峯系の神楽の神歌からきていることを示している。この曲は難曲とされているが、これを歌えることは長老の権威と結びつけられている。

口唱歌は、民俗芸能の口伝の方法である。即ち、笛や太鼓のリズムを文句のようにして覚えるものである。民俗芸能に限らず能や三弦の音楽にも類似の方法があるが、これはチャッパという笛の口唱歌である。楽譜ではシャンの時、鈴や太鼓等と一緒に鳴るのであろう。音楽的見地からしても非常に合理的にできている。

男声合唱組曲「川よとわに美しく」

グリークラブは昨年の夏、九州への演奏旅行の一環として長崎を訪れた。演奏会を終えた翌日、自由行動の一日を市内見学に費した。その楽しいひとときに終わりに平和記念公園に行った。原爆記念日の前々日で、記念式典の準備が進められている公園の正面に建つ平和記念像の前には多くの花輪が捧げられていた。その像をバックに記念撮影をしている僕と同じ年頃の若いカップルを見ていると、ひどく晴れやかな笑顔で、あの像と同じように右手にソフトクリームを高々とかかかってカメラにおさまっていた。この光景にそれまでの楽しい気分も一転して暗たんたる心になってしまった。そして重い足どりで訪れた原爆資料館で「もういい。やめてくれ。」と叫びそうになるのを必死でこらえてその展示物を見てまわった。それは終末の光景であった。もはや戦争ですらもなかった。この体験は僕の心の中に暗い影となって残った。

昨年の芸術祭で「川よとわに美しく」が優秀賞を受賞し、FMで放送された直後、「これを来年(1982年)のレパートリーにしたら」と福永先生から楽譜をいただいた。そしてようやく今回の定期演奏会で上演できることになった。その間に出版され市販されるに至り、関西では我々を含めて4団体がこの曲を定期演奏会でとりあげるようだ。作曲者にとっては初めての男声合唱曲ということもあってか、合唱技法としてはむしろ平明な和声をもっているが、それがかえって男声合唱特有の倍音効果をもたらし、様々に変化するピアノとシンセサイザーの音色と相俟って大きな説得力をもつものとなっている。

あの忌まわしい体験から37年を経た現在、平和は未だ人類のものとはなっておらず、逆に危機が叫ばれている。従って、ここに歌われている内容は全く今日的なものである。決して肯定する訳ではないが、人間は戦闘本能をもち、少くとも過去の様な戦争はある意味での進歩をもたらしてきたことも事実である。しかし、広島や長崎のそれは人間の次元を超えてしまって、もはや戦争と呼ぶことすらできないただの終末である。そして我々が今歌うのは平和への心からの願いであり、切実な生への執着である。詩がひとり歩きすることなく、心よりの音となって聴衆の皆様心に伝われば幸いである。

広島や長崎のみならず、世界中で核のために生命を奪われ、或いは傷つけられた方々の上に、謹んでこの演奏を捧げる。

楠 敏也

作曲者のことば

この作品は、昨年3月、NHK広島の原武チーフディレクターに昭和56年度文化庁芸術祭合唱曲の部への参加を委嘱されて手がけたものです。私にとっても初めての男声合唱曲であったにもかかわらず、まわりの方々の暖かいアドヴァイスや御協力のおかげで、手ごたえのある反響をいただき、たいへんうれしく思っております。今回また、同志社グリークラブのみなさんがとりあげてくださっているということで、作曲者としてこんなにうれしいことはありません。どうか、皆さんの若い情熱を存分に燃やし尽くして下さい。御成功をお祈りします。



三枝成章

略歴

- 1966年3月 東京芸術大学作曲科卒業
- 1972年3月 同大学院卒業
- 現在、東京音楽大学、桑沢デザイン研究所講師。日本作曲家協議会、日本現代音楽協会、東京デザイナーズスペース、会員。
- 主要作品は、…………… 〈6声のためのマドリガル〉(1970)
- 〈ピアノ協奏曲〉(1971)
- ロックオペラ〈サロメ〉(1978)
- グランドオペラ〈龍恋譜〉(1978)
- 〈ラジエーション・ミサ〉(1981) などです。
- 1967年、管弦楽曲〈ヴァリアツィオーニ13〉が、内閣主催「21世紀の日本」作曲部門において、優秀賞、国務大臣賞受賞。
- 1974年、〈UTA〉が芸術祭優秀賞受賞。
- 1981年、男声合唱曲〈川よとわに美しく〉が、芸術祭優秀賞。〈ラジエーション・ミサ〉(ワーナーパイオニア)がレコードアカデミー賞受賞。

川よとわに美しく

米田 栄作

1 釈哲道童子

その子の名は哲郎
二つだった
原爆の焼ヶ野原を
幾日も幾日も
一ヵ月も
二ヵ月も
私は探し歩いたが
その子の背さえも見つけ出すことができなかった
今でも私は想うのです
今でもその子はどこかで生きているのではなからうかと
恐かにも私は想うのです
あの日の茸雲に乗っかって
天へ昇ったのだらうか
それとも花粉のように
川の中へ散ったのだらうかと
一生涯 私は思うのです
この町の天と川とが
まっ青くなってきたのは
その子や
その子のような天使たちが
たくさん たくさんいるからだらうと
私は想い浮べるのです
その子の右腕に
小さな青い痣が一つありました
鶏豆ぐらいの青い痣がありました
その子は
それだけを私に残してくれました
それだけが私の瞳に滲みております
一生涯私は想うのです

2 永遠の川

スパークした太陽
その一瞬をとどろく鳴動音
とどろく鳴動音
暗黒に押し倒され
夢魔のように襲いかかる暗冥
真っ黒い雨の土砂降り
終焉と
死滅の果ての
幻を掴んだ生命の
点滅したであろう川の幾筋

3 荒廃に立ちて

瓦礫の路ゆけば
冬陽 さんさん
余燼のはとり はやはつほつと
青きもの芽ばえ出るに
わが子は帰らじ きこゆるは
とあく こがらしの音のみ
よるべなく 相生の橋に佇つれば
水底のひらめくものや
ああ おもかげよ
幼かりにし……

4 静脈の川

川を距てて
おまえと私は別れていったっけ
そのころ 水がどんな色であったか
おまえは覚えているかい
私は思いたせない
……………
すっかり 荒地になったんだよ
私のとぼしい静脈のなかに
川がひとすじ 流れているんだ
澄みきった 青い水の色だ
おまえの眼差しが見え
おまえの微笑みが見える水の色だ

私は私の胸を抱きしめる
青い青い水が温まり
燃えあがる 燃えあがる川なのだ
絵本のように 落日が彩って(い)る川なのだ
おまえの乳臭い体温のよう
そうら おまえもわかるだらう
じっと おまえと私が抱き合っている——
静脈のなかの川だ
川がいくすじも貫いている荒地だ
しずかにお聞き
水脈にひびいている久遠の鐘を
……………

5 川よとわに美しく

ふたたび すばやく甦ったもの
それは三角洲をつらぬく川だった

日を趁うて 水脈は
色濃く湧えてきた

その色の中で私の子は
随分大きくなっただらう

夕映えて 川は雲を抱き
原色をまじえ燃えつづけていた……

川は敗れなかった
川は崩れなかった

色湧えてきた水嵩
それゆえに雲々は
日毎 水浴びにやってくる

水底の焼木一本
それゆえに私の子は
夜毎 ぶらんこを夢みるだらうか

朝夕 鐘よ鳴りわたれ
彩いろに美しく 水は
永遠に漂うものを
川は焼けなかった
川は失われなかった

コダーイ男声合唱曲

鉄道官吏でありバイオリンをひいた父と、ピアノをたしなんだ母との間に、1882年、コダーイは生まれた。父の仕事のせいで全国各地を移動しなければならなかったが、それがのちに大きな意味をもつことになる。また音楽好きの両親によって、早くからハイドンやモーツァルトの室内楽曲に接していたようである。ピアノを正式に学びはじめ、また教会の聖歌隊のメンバーとして少年期をすごし、彼はまずブダペストの大学でフランス文化とラテン人文主義について専攻する。のちに、ブダペスト音楽院に入学し、作曲をハンス・ケスラーに学び、ペラ・バルトークと親交をもつようになった。

これ以降の彼の生涯は、作曲・マジャール民謡の研究・および民謡に基づく国民的な音楽教育という3つの大きな分野にささげられることになる。

作曲においては初期の習作時代にはブラームスふうのスタイルから出発したが、その後、声楽作品においては16世紀イタリアのポリフォニー的な要素、器楽作品においてはドビュッシーを始めとするフランス印象派の手法が支配的となる。そしてそれらの要素の中に彼は独自の方法、すなわちマジャール民謡の研究成果を土台とした彼の音楽語法を融合発展させていった。

パレストリーナ対位法は、彼の旋律家としての性情と適合し、彼独自の技法の完成とメロディーの構成や発展のための基盤となった。彼の簡潔で透明な対位法的声部書法はパレストリーナの影響なしには考えられない。しかし、それはあくまでも精神の影響においてであって、実際に彼が用いる和声ははるかに複雑な現代的なものである。そして、コダーイの音楽のもっとも重要なものは、マジャール民謡から得たものであった。

マジャール民謡の特徴的なパターンを挙げると、(1)下行4度または全音上行による終止法、(2)反復音の多い旋律、でありまたコダーイの音楽の全体的な特徴は、形式が明晰なこと、ラプソディふうであること、装飾的楽句に富んでいることなどである。

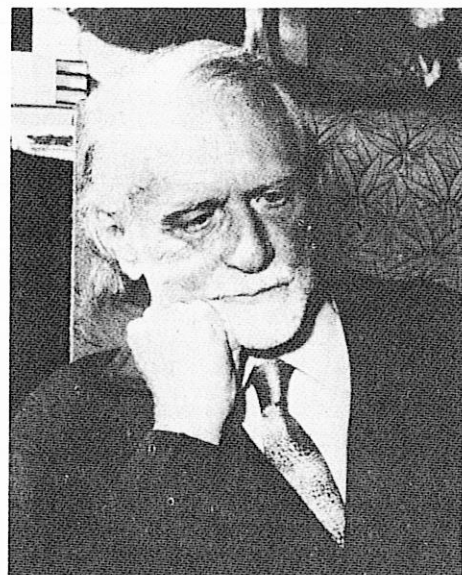
コダーイの声楽曲は彼の音楽の主観的な側面をよく表わしており、抒情的瞑想的ノスタルジックなものである。当然ながら、彼の音楽的思考の中心はメロディーであり、マジャールの言語の独特な拍節に注意がはられ、旋律線は常に詩の朗詠上のアクセントの位置に呼応している。また、そのメロディーを支えるハーモニー、対位法的な処理は、伝統的な西洋音楽のそれではなく、きわめて斬新である。

彼は作曲活動のほか、バルトークとともに全国のあらゆる地をくまなく歩きまわり農民歌の収集と組織的研究にとりかかった。その集大成の論文は広く世に認められ、ハンガリー音楽学の基礎となっている。またそののちもコダーイはマジャール民謡の歴史的研究およびマジャール言語の関係を深く研究した。

また彼のもっとも重要な業績として音楽教育の分野をあげなければならない。すぐれたプロフェッショナルな音楽家を多く育てたばかりでなく、革新的な方法で学校教育制度と成人教育の中にハンガリー民謡をとり入れ、きわめて短い期間に全国的な音楽的な再教育をなし遂げたのであった。そのために、現在、ハンガリーでは全国民が楽譜を読めるようになり、国民全体の音楽的な趣味を革新させた功績は大きなものである。

最近、日本でも彼の教育的なメソッドを研究することを目的とした日本コダーイ協会が設立され、今年の夏に第一回のセミナーがもたれたのは、たいへん喜ばしいことである。

(K.T.)



KODÁLY ZOLTÁN

1. Isten Csodája (神の奇蹟)
(大意)

歴史を照らす星が過去へ光を放つと
目は我々自身の手の中
至るところに我々自身を標的とする殺意を見る
そしてこの自分を殺す手が
何度我々の上に振り降ろされたか!
それでもわが祖国が存在しているとは
これは神のもたらした奇蹟だ

胸の内では決していやすことのできなかった
数世紀にわたる多くの傷を
こうしてひきずっている
我々の傷をいやそうとする者は
いつも毒を飲まねばならなかった
我々の祖先は悪い霊なのだろうか?

ここにショヨ川が流れている
頻死でいれんしている人のように
曲がりくねっている
そこで我々は死に頻し
巨大な吸血鬼のような蒙古軍が我々の血を吸った
そして炎が我々の死体をむさぼり食った

そこにモハーチがある……
そこで王は軍馬により圧殺され
倒れた王の剣から今もまだ燃え血を流す
驚くべき小鞆が 我々のためにつくられた

我々の未来はいかに?……私は問う
だが それを考える人は少ない
マジャール民族よ!
君は自分の人生がいつも良運だと信じるか
我々がそうして来たように
ただ神を信じてばかりいてはだめだ!
我々の祖国よ 我々の人間性により成立つように

2. Fölszállott A Páva (孔雀が飛んだ)
~ Ady Endre ~

(大意)
孔雀が町の半獄の上に飛んでいった
たくさんのかわいそうな若者たちを
自由解放するために
美しく気高い孔雀
日に照らされて目もくらむような羽毛
明日はこんなふうにはならないだろう
とみんなに知らせよ
明日はこんなふうにはならないだろう
最後はこんなふうにはならないだろう
新しい顔 新しい眼が
空に向かって笑う
新しい風が 古いハンガリーの木々でざわつかせる
新しいハンガリーの奇蹟を待とう
我々が愚かであって
私たちは最後の1人までいなくなってしまう
この我々の信仰が現実のものとなるか
ハンガリーのことばに新しい意味がもられるか
悲しいハンガリーの生活がもとのまま残るか
炎が古い荒れ果てた半獄をうちまかすか
魂がつねに圧迫を受けたままにいるか
孔雀が町の半獄の上に飛んでいった
かわいそうな囚人たちを解放するために

3. Mulato Gajd (陽気な人)
~ 17世紀の名もない詩人の作品 ~

(大意)
今 皆で忙しく働いて
ぶどうの収穫も終わり
よいワインができた

そのワインはダンスをわかせる力を与えてくれる
飲もう これこそすばらしいワインだ
優しい御主人 何杯も注いでおくれ
御主人様 飲み物をおくれ
とってほしいんだ
ああ 喉の渇きを潤すものを与えてくれないか
財布は空っぽ 金はない
干ぶどうより甘いこの酒
梓より芳しいハチミツ入りのビール
タルツァリのワインより強いこの酒
肉のフライ パン
おなかがついている者に与えるべきだ
ビールを飲んでる人には
焼百舌をあげよう
悲しんでいる者は ここに居るべきでない

4. Karádi Nóták (カラドゥ地方の歌)
(大意)

~ Népdalok után 民謡より ~
居酒屋のおかみさん 私の大事な人よ!
あいさつがわりに
私に一杯のブドウ酒をおくれ!
でも その中に水を入れないでおくれ。
気分が悪いからね。
おかみさん 私の大事な人よ!
良く肥えたがらうを食べたいんだが あるかい?
ありますよ アンドリシュでもまだできないんだ
すぐに焼いてあげるからね。
もうすぐ食べられるよ。
がらうの肉で おなか一杯になっておくれ。
食べて飲んで大いに楽しもう。
みんな警官の仲間じゃないか。

コルモシュビタートはシモントルニヤーンで捕えられた。
彼はすぐに偉い人の前に連れて行かれた。
その中には知事や領主もいた。
彼に尋ねた。

お前はいったい何頭の馬を盗んだんだ イショトバン
馬を盗んだ 5頭も6頭も7頭も盗んだ
それでも旦那方はちっともいたくないだろう。
できれば50頭も60頭も70頭も盗みたかったんだ。
それでも旦那方はどうってことないだろう。
コルモシュビタートは牢屋に連れて行かれた。
それを彼の恋人が窓ごしに眺めていた。
見ないでくれ 見ないでくれ 私の哀しい姿
みんな 君のために 私は我慢しているんだ。
私は旦那方にうやうやしく願います。
こんなつまらない悪者を許して下さい。
羊飼いでいい 馬飼いでいい 旦那方の為に働きます。
私を自由にして下さい。
33頭の黒い馬をひいて、
その馬でもって旦那の畑を耕します。
灰色の馬の世話もします。
7つの州にもいないような立派な馬です。

豚飼いは その歩き方でわかる。
縫いつけられたはき物とザックの皮ヒモでわかる。
豚は茂みに隠れて耳だけ見えている。
豚飼いは茂みの中で若妻と何かいい事をしている。
水車に豆を持っていく。
じょうごの中につめる。
私はそれが純粋な小麦だと思っていた。
隠れる 隠れる 私のフトンの下にうまく隠れる。
私は水車番にこう言った。
他の人には絶対にしゃべらないでおくれ
水車番はそれを約束した。
でも誰かが妻の母親に言ってしまった。



同志社グリーンクラブ技術顧問
福永陽一郎

1926年神戸に生まれる。東京音楽学校(現・芸大)本科ピアノ科出身。井口基成、豊増昇氏にピアノを師事。在学中より東宝交響楽団(現・東響)で近衛秀磨氏の助手をつとめ、同氏に作曲法、指揮法、管弦楽法を師事。M・グリット氏にオペラ指揮法を師事。

1951年藤原歌劇団に入団、同団常任指揮者として'65年まで活躍。その間同団第三次渡米公演を指揮し、また'59・'61・'63・'71年のNHKイタリア・オペラ来日公演に際しては、日本側代表指揮者として参加、副指揮・合唱指揮をつとめる。歌劇指揮者として広くその名を知られる一方、合唱界においても、プロ合唱団・東京コラリアーズを'52年に畑中良輔氏と共に設立したのを始め、多くの合唱団を育て、特にアマチュア音楽の育成にける情熱は大変なものである。

又、評論活動も多くの人々から注目をさ

れ、著書には「演奏の時代」(紀伊国屋書店・カプセル書房)がある。合唱用の編曲は数百曲にも及ぶ。同志社グリーン、早稲田グリーン、法政アカデミー他、多くの合唱団を指揮する一方、藤沢市民交響楽団の常任指揮者をつとめ、'80年の藤沢市民オペラ「カルメン」の上演は多大の反響を呼び起こした。

1979年ウィーン世界青少年音楽国際合唱コンクール審査員。

今年の定期演奏会は、いろいろと特別の意味を持つ音楽会になってしまった。

まず、グリーンクラブの創始者であられた片桐哲先生が、どうとう亡くなられた。先生からいただいた御恩情を思うと、私が同志社グリーンと離れないでいること以外に、御恩返しの方法がないような気がしてくる。また同じくグリーンの大先輩でもあった作曲家の大中寅二先生が亡くなられたのも今年である。大中先生からも、たいへん大事にしていた。今年の定演は、まず、お二方への追悼からはじめなくてはなるまい。

大阪でだけ定期演奏会をやった、京都でやらないというの、特別のケースではないだろうか。いま咄嗟の記憶では、そうした年は前例が無いように思う。そしてその大阪の演奏会が、日本で最初の純コンサート・ホールである「ザ・シンフォニーホール」を会場とするのも、もちろん初めてのことである。この秋に開館したばかりのホールで、ひょっとしたら、男声合唱で使うのは初めてではないか。パイプオルガンが設置されており、むかし、同志社の栄光館でやったとき以来、本物のオルガンで演奏するのは久方ぶりになる。たまたま、オルガンが活躍するミサ曲の男声合唱版を

持っていたのが幸運だった。

定期演奏会で、ひとステージしか振らないのも、病氣や何かで欠席した場合を除いて、ここ20年来、無かったことである。これは、富岡健君という立派な指揮者がいるのだから、私は、本来の「技術顧問」の役割に徹しようという、在任20年を過ぎたときの考えかたがたちをとったまでである。いまここで、同志社グリーンを放り出したりするというのは、ここでひとつのエポックを画することは、マンネリ化を避けるためにも、必要な行動ではないか、と認めてのことである。

同志社グリーンは、誰しも、現状に甘えていっているような、若者らしくない意識は、更々、持っていないことだと信じる。しかし、どこかに、時の流れに押されて、確たる理由もなしに「その日」が来てしまうようなことに、言わず語らずのうちの諦観が溜まるようなところが、無きにしてもあらずだ。行動の裏付けが「辩解」になっても、たいした恥ではないような、そうした雰囲気、何となくだが存在する。楽天的というのではなくて、限界に挑戦する心意気といったものが弱く感じさせられることが、ときたまある。

へんに年寄りじみているのだ。

音楽団体は、音楽をやることでしか、道を打開することができない。今年も、よりよい音楽のために、身を挺するしかない。そうして、向うの空に青空が見え陽光が差す。そんな気分を味わって、その意味でも久しぶりの定演にしたいものである。

り同志社グリーンクラブ指揮者に就任した。

今年には同志社グリーンクラブにとって大切な先輩をお二人も神のみにおおくりしなければならぬ不幸な年でした。大中恩氏の御尊父であり、やしの実、の作曲家として知られた大中寅二先生は霊南坂教会のオルガニストとして永年にわたって教会音楽の分野にも活躍なさいました。私が高校生だったころ、同志社グリーンクラブの定期演奏会で先生のライフワークとなっていた交声曲の一つである「聖典曲五章」という作品を拝聴し、やしの実しかしかなかった私は、その作風の新鮮さにとまどったことを思い出します。

一生涯こよなくグリーンを愛し、いつもあなたたく見守ってくださった片桐先生がおなくなりになったという知らせはショックでした。私が現役のところから、先生のお体具合がかんばしくなく、直接お話をうかがうような機会も得られませんでした。それをさびしく思っていたころ、妙なところで先生とお話しさせていただきました。私のいとこ先生のお孫さんが結婚することになり、式場でお会いすることができたのです。その後、私がアメリカに留学していたころは、いろいろ親戚の者に私の様子を

心配でおたずねくださり、帰国してからグリーンクラブの指揮者として現役からむかえられたことをこのほかに喜んでくださったり、本当に先生のあたたかい応援に感謝いたしておりました。同志社女子大では、それこそ全国各地からお集まりになった百数十人の先輩がたと現役による合唱を指揮させていただけで先生とおわかれできたことを心からうれしく思っています。

御二人の大先輩を失なうたまま、そして多くの先輩諸氏と知りあっていた、グリーンクラブに対する私の責任の重さを痛感いたしております。現役も充分承知いたしておりますが、グリーンクラブは実に多くの先輩がたに見守られ、支えられています。音楽の現場で直接現役とかわりあいをとつたばかりのOBであることを思うといろいろ反省することばかりです。

今年度ははじめに技術顧問でいらっしやる福永先生とご一緒に、双頭というのではなく両軸として、ますます同志社グリーンをすてきな合唱団にしよう、とお話しをしたのでした。前期は現役とのつきあひも希薄で、その覚悟も思うようにはまいませんでしたが、定期演奏会を前にして、改めてグリーンクラブに対する私の覚悟を認識している次第です。



学生指揮者
楠 敏也

1960年京都生。同志社中学、高校より合唱に親しみ、その間、指揮者としての経験を積む。大学入学と同時にグリーンクラブに入部、本年1月に第51代学生指揮者に就任。他に自らが結成した合唱団の指揮者をも務めるなど、多忙の身である。

彼の豊かな西洋音楽の知識、加えて磨かれた感性、それにタフネスを誇るべき体力と京都弁まる出しのその放言で、クラブ内では異様な存在であるが、「くっすん」という別名でみんなから親しまれている通り、一同全幅の信頼を寄せている。今宵、六連の再現ができるか。本人より一言「皆、ほんまに、ほんまに頼むぞよ!」

今年の3月、僕は飛騨高山から北アルプ

ス穂高への旅に出かけた。山好きの僕にとって雪の穂、穂高連峰を見ることは以前からの夢であり、当然それが旅のクライマックスでもあった。雲ひとつない絶好の快晴にめぐまれたその日、新穂高温泉からロープウェイに乗った僕は相当な興奮状態にあった。3000mの岩峰の眼前に迫る高原に降り立った時、自分と対峙している自然の崇高なる偉大さに完全に圧倒されてしまった。一緒に登ってきた幾人かのスキーヤーがざわめきと共に滑り降りて行き、僕だけがそこに残された。体のほてりをしずめてくれる冷たい風の中で、ぴんと張りつめた静寂に包まれ、僕自身も息をひそめてみると、どこからか自然の生命の息吹がきこえてきた。太古の昔から時間が停止してしまったかの如くに絶対的な姿を保っているかと思っ

ているかと思っ

ているかと思っ



ヴォイストレーナー
大久保昭男

昭和28年、東京芸術大学声楽科を卒業。矢田部勤吉氏に師事された。近衛秀磨指揮、青山杉作演出によるオペラ「カルメン」のモレラス役でデビュー。山田耕筰作曲、指揮、オペラ「黒船」、ドヴォルザークのオペラ「ルサルカ」などにも出演された。昭

和34年にはドイツ・リート、日本歌曲による第1回リサイタルを開かれた。

慶応ワグネル、上智、立教、明治、関西学院、同志社の各グリーンクラブ、早稲田のコール・フリューゲル、法政アカデミー等、大学のトップクラスの合唱団のヴォイストレーナーとして、関東、関西で広く御活躍されている。

現在、東京芸術大学講師、昭和音楽短期大学教授。

第78回定期演奏会によせて

近年、大学とその他一般の合唱団が、非常に高いレベルの演奏をする様になってきています。中でも京都はトップクラスの合唱団が堂々と歌っています。京都は美しい古い街でありながら合唱は日本の最高峰といった様に対照的なのは非常に興味深いことだと思います。

同志社グリーンも近頃は次第に力をつけて来ている様に私は感じています。やはり高く美しいものを創るためには、表面に出ない大きな努力が必ず必要なのは云うまで

ひとつをとっても一回きりの「生きた音楽」なのである。だから僕はそれぞれの瞬間に全身全霊を賭けて真剣勝負する。

あれもこれもと欲げらうちに、今年は例年にならぬ程の超過密スケジュールをグリーンメンに強いることになってしまい、本当に申し訳なく思っています。ホッと息をつく暇もない毎日が続いているのですが、何とかやり遂げてくれるだろうとの漠たる信頼感があることも事実です。福永先生がハイドン一曲だけというのは少し淋しい気もしますが、オーケストラとの共演となれば、先生なら何でもいえます。我々の近くには兄貴のような富岡先生がいてくださいますし、大久保先生も「学生指揮者のステージこそが本当のグリーンの実力なのだから…」といつも熱心に指導して下さいます。又、東西四連での山田一雄先生、関西六連での関屋晋先生、「ことばあそびうたII」のレコーディングでの北村協一先生、京都合唱祭合同での吉村信良先生など素晴らしい先生との共演はグリーンクラブにとっても、僕自身にとってもラッキーな体験だったと思います。

その他、各時各地でお世話になった方々の愛情にも感謝しなければなりません。

しかし、何といっても主役はグリーンメン一人一人です。絶ゆまざる日々の努力によって磨きをかけた、それでいてそこに「一回限り」の生命の息吹を感じられる「生きた音楽」を奏でたいと思います。

願わくば、我々の音楽が心より出て、皆様の心に届きますように。

もありません。私はこれぞと思う演奏会は出来る限りの時間を作って聞きに行くことにしていますが、それでも中には芸術性の非常に低いものを聞かされる時があります。勿論、身の震える様な感動的な演奏もありますが……。

そう考えてみるとアマチュアの合唱の中には世の中のプロと称して生活している人達に一度でも聞かせてあげたい様な素晴らしいものが数多くあることです。音楽を知り楽しむためには、先づ自分自身の耳が第一だと私は常々思います。今の世の中には、まだまだ耳を疑いたくなる様な音楽家?がごろごろいるのは確かです。本当に音楽を愛し、合唱の好きでわかる人は、むしろ永年合唱の中にいたアマチュアの方々に多い様に思います。

いづれにせよ合唱する人達の集りは、みんな音楽の力を合わせて、より高いものへと力強い、そして美しい努力を積み重ねて、その一人一人が魂のこもった歌を歌ってくださる様に私は願っています。



ソプラノ
坂口 菜里

大阪音楽大学大学院修了。
音楽クリティッククラブ新人賞受賞。

〈オペラ〉
「魔笛」ババゲーナ、「コシ・ファン・トゥッテ」フィオルディリージ、デスピーナ、



オルガン
津田 能人

武蔵野音楽大学オルガン科を卒業。オルガ



ピアノ
長田 育忠

同志社大学法学部在学中。高校時代から合唱、独唱の伴奏、礼拝でのオルガニスト等をつとめる。ピアノを山下啓子、遠山つや、松野景一諸氏に、和声学を島田和昭氏に師事。

現在、大学や一般の合唱団での伴奏者として活躍中。また合唱用の編曲も多く手がけている。

同志社グリーンクラブとは六連にひきつづき今回が6回目の顔合わせとなる。

「フィガロの結婚」スザンナ、「ドン・ジョヴァンニ」ツェルリーナ、「ドン・バスクワレ」ノリーサ、「セヴィリアの理髪師」ロジーナ、「ラ・ボエーム」ミミ、「ジャンニ・スキッキ」ラウレッタ、「仮面舞踏会」オスカル、「カルメン」ミカエラ、「利口な女狐の物語」ピストル・シュカ、「ヘンゼルとグレーテル」グレーテル…他

1979年 ジョイントリサイタル (大阪)
1981年 リサイタル (大阪)
ジョイントリサイタル (京都)

〈各種演奏会〉
「スタバート・マーテル」(ペルコレージ)
「ミサ・プレヴィス」(モーツァルト)「メサイア」(ヘルデル)「レクイエム」(フォーレ)「ハ長調ミサ」(シューベルト)「カンタータ」(バッハ) 1982年 京響ニューイヤークンサート等

伊藤富次郎、江口元子、O・ミリヤコヴィッチ (発声)、H・ドイチ (歌曲) の各氏に師事。現在、大阪音楽大学、同志社女子大

ンを秋元道雄、吉田梓両氏に師事。1974年より2年間、西ドイツに留学、(西ドイツ政府交換留学生として) オルガンをハンス・ハインツ (Hans Heintze) に師事、その後国立ケルン音楽大学にてペーター・ノイマン (Peter Neumann) にオルガン、またゲオルク・ボルク (Georg Bork) に合唱と指揮を学び、教会音楽家の資格を得る。その間、ケルン近郊のヨハネ教会のオルガニストを勤める。プレーメン、リュネブルク、ケルン、その他、各地でオルガンのリサイタルを催す。

帰国後、国際キリスト教大学を始めとしてNHKでの録音、オルガンのリサイタルを行なっている。1977年 京都バッハ・カントライを設立、現在、その指揮者としても活躍。また、日本オルガニスト協会の関西支部の支部長として、教育面では、同志社高等学校で教えるかたわら、同志社大学



シンセサイザー
新町 峰雄

'57 五月五日、福井県勝山市に生まれる。'65 小学六年。クラシック・ピアノをはじめ。これは、高校にはいり、受験勉強がいそがしくなると、中断する。'77 同志社大学商学部に入學。さまざまなアルバイトを転々とする。その間、ジャズに傾倒するが、演奏するまでには到っていない。'80 アルバイト先のジャズ・クラブで、亀田邦宏氏と知りあい、師事する。'81 自己のトリオでライブ活動をおこなうほか、ソロ活動により、プロとして生活をはじめ。'82 現在、自己のトリオによる活動のほか、ソロ活動、アレンジなどにより生活している。

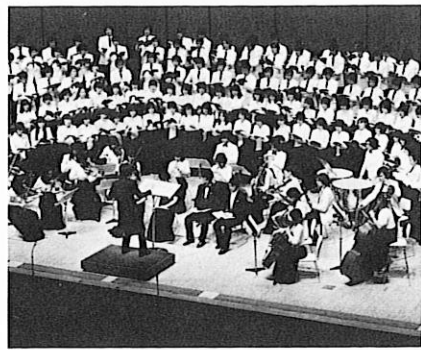
学講師。関西二期会正会員。

ハイドンの生誕250年の記念すべき年に、今秋誕生したばかりのシンフォニーホールで、同志社グリーンクラブの皆様と一緒に、美しく崇高な「聖ヨハネ・デオの祝日のミサ・プレヴィス」を歌わせていただくことを、とてもうれしく思っています。私が合唱の魅力にとりつかれたのは合唱団京都エコーに在団したことに始まります。福永先生の指揮で演奏した黒人霊歌・エコーでの数々のステージ・日本アカデミー合唱団でのレコーディング、その他、様々な合唱団との協演等、合唱を通しての美しい思い出を持っていることを誇りに思っています。今夜のこの記念すべき演奏会が、1人でも多くのお客様に満足と幸福が与えられますよう、精一杯歌いたいと思っています。

最後に、このすばらしいステージをお贈りくださいました福永先生・京都エコーの浅井敬壹氏、平松実留氏、そして、同志社グリーンクラブの皆様から感謝致します。

神学部でも教鞭をとっておられる。

ハイドン生誕250年を記して、彼のミサ曲が演奏されるということ、しかも、本格的なオルガンが備えつけられているホールで演奏できるということ、これだけとっても大変なこと、すばらしいことだという気がします。さらに、あの自然を愛し、人類を愛し、オラトリオ「四季」を作曲したハイドン、神を愛し、勿論、音楽を愛した「天地創造」を作ったハイドン、当時の人々からも慕われていたパパ・ハイドン、やはり大人の風格です。そのハイドンの作品が今日、このようにして、伝統ある同志社グリーンクラブの諸君たちと一緒に出来る光栄を感謝すると共に、私たちはあの円満なハイドンの人格を充分に感じながら演奏会を持ちたいものである。



オーケストラ
アムジー室内合奏団

アムジー室内合奏団は、グループ・アムジーの名で1年と少し前に大阪で発足したばかりのアンサンブルです。若手のプロフェッショナルな音楽家で構成され、バロック音楽からポピュラー音楽まで幅広く活動しています。

華燭の典



〈晴れの日〉おもてなしする心はひとつ

長い歴史と伝統から生まれる雰囲気がお慶びをひときわもりあげます。挙式からご披露宴まで、様式や調度の異なるご祝宴会場が、ご両家にかわってきめ細かなおもてなしをいたします。

東山の高台から古都を一望
京都・東山・けあけ
都ホテル
☎(075)771-7111

新幹線口から歩いて1分
京都駅八条口
新・都ホテル
☎(075)661-7111

〈大阪空港へ便利〉両ホテル玄関前より空港バスが運行しています。



同志社グリーンクラブ第78回定期演奏会

Musika STAFF **TES** TES IJIMA STAGE PICTURE
スタッフ・テス 株式会社
テス飯島舞台写真

〈大阪支社〉〒553 大阪市福島区福島6-18-1
マンション 太源 501
TEL.06-453-0421

〈本社〉〒157 東京都世田谷区南鳥山4-17-9
TEL (03)309-5161(代)

TES TRAVEL
CONSULTANTS CO., LTD.
(株) テス・トラベル
コンサルタンツ
TEL.(03)496-7403

海外との文化交流を企画しませんか

- データー・バンクの役はテス・カルチャーセンターです
- すべてのあし(足)の役はテス・トラベルが荷います
- そして、あなたの足跡の記録は—
- テスのカメラマンがいたします

TES CULTURAL
CENTER
テス・カルチャー・センター
TEL.(03)496-7516

テスグループはTotal Plannerです

〒150 東京都渋谷区道玄坂2-10-10 世界堂ビル702号

河原町御池角のイタリアの味

喫茶・お食事

レストラン
ピアンカ

京都ホテル地階1階

スパゲッティやピザなどを中心にした、本場イタリアの味を是非一度お試しください。

喫茶も兼ねて営業いたしておりますのでお気軽にご利用ください。

営業時間

10:00 a. m. ~ 9:00 p. m.



メニューの一例

- スパゲッティ バジリコ ¥700
- スパゲッティ ボンゴレ ¥900
- カッペリーニスピナーチ ¥900
- ラザーニャグラタン
ポロネーゼ ¥1,000
- フェットチーネミラネーゼ ¥900
- ピッツアパイ
ピアンカ特製 ¥700
- エスプレッソコーヒー ¥300
- カプチーノコーヒー ¥400

京都ホテル

京都市中京区河原町御池 11 (075) 211-5111
ご予約・お問い合わせ「ピアンカ」(内線2232)

安くて近いコンパ会場

まよす

京都市上京区寺町今出川上ル

電話 231-5121・5122

SAM Records

録音全般・各種レコード製作

株式会社 **阪神ライブレコーディング**

〒651 神戸市中央区上筒井通5-2-10
TEL (078) 241-1899(代)

◎宴会コンパ大集合

予約電話 223-2111

貸切予約制

- ※カラオケコンパホール..... 80名様まで
 - ※本格派お座敷コンパ..... 40名様まで
- 河原町で唯一の洋風コンパホールはひと味違ったコンパを味わっていただけます。

エレクトーン・ステレオその他カラオケ設備完備
大学コンパ、クラス会、各種会議・説明会その他
にプライベートなディスコパーティー、レコード、
映画鑑賞会など多目的にご利用下さい。

メニュー一例

- 瓶ビール(中) 350円
- 生ビール(大) 530円
- 黄桜 一級 250円
- やきとり3本 200円から
- 将軍焼 350円
- むしどり 350円
- 揚げとうふ 300円
- からあげ 380円

内容で勝負
鍋料理メニュー

- チャンコなべ(一品付) 2,000円
- 寄せなべ() 2,800円
- 水だし() 1,800円
- すきやき() 2,800円
- かにちり() 2,800円

(単品メニューは鳥將軍と同じ)

※ウイスキー飲み放題お一人様500円でOK!

鍋料理

鳥將軍
やきとり

エアポート1F

京・中京区河原町三条上ル一筋目東入ル
エアポート1F 予約電話 223-2111(代)

3の宴会パック

Aコース7,500円

(お一人様、税サ込)

- 各種取合せオードブル ●スープ(温コンソメ) ●伊勢海老 ●貝柱のプロヴェンス風 ●ハムのクレオール風 ●ローストビーフ ●ローストチキンニース風 ●トマトサラダ・ポルトガル風 ●クラブハウス・サンドウィッチ ●お造り ●ホーレン草の胡麻和え ●鉄火巻き ●果物 ●飲物/ビール、ジュース、酒、ウイスキーの中から、いずれかお選びください。

Bコース6,500円

(お一人様、税サ込)

- 各種取合せオードブル ●スープ(温ポタージュ) ●サケの冷製レムラードソース ●小海老のまきご揚げ ●ローストビーフ ●タンバイ ●若鶏のバーベキュー ●ミートボール・ポルトガル風 ●マトンの韓国風 ●ローストポーク・アップルソース添 ●季節のサラダ ●細巻 ●果物 ●飲物/ビール、ジュース、酒、ウイスキーの中からいずれかお選びください。

Cコース5,500円

(お一人様、税サ込)

- 各種取合せオードブル ●スープ(温ポタージュ) ●キングサーモン冷製(北海道直送) ●小海老のビーフ巻き ●海老のテリーヌ ●ミックスミートのバーベキュー ●マトンの祇園ホテル風 ●はる巻き ●フライドポーク・チャイニーズ ●スタッフドチキン ●季節のサラダ ●細巻 ●果物 ●飲物/ビール、ジュース、酒、ウイスキーの中からいずれかお選びください。

※料理の内容は季節により変更させていただく場合もあります

うれしいグループサービス

- 20名様以上の団体には、幹事ご一名様と卓上花を無料サービスいたします。(A・B・Cコース)
- 20名様以上はシャンパンを無料サービスいたします(Aコース)
- 30名様以上はオールド1本、50名様以上はオールド2本を無料サービスいたします(A・Bコース)



「京のこころにふれる」
京都 祇園ホテル
祇園・八坂神社石段下

お問い合わせ・ご予約は ☎(075)551-2111
内線107・108(宴会係)

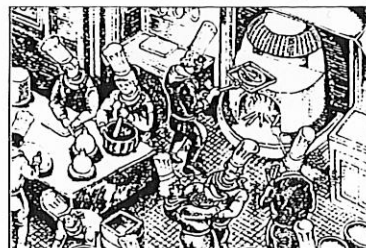
ご宿泊パック(参考例)
宴会パック(Cコース)+宿泊(3割引き)+朝食付
ご一名様 **11,500円**(税サ込)より承ります。
お気軽にお申込みください。



メンズ プレタポルテ **フスムラ**

☎543 大阪市天王寺区味原町15番18号 ☎(06)771-4656~7

地中海の風味 **CATERINA**



営業時間

PM12:00~PM2:30
PM5:00~PM10:00

レンガづくりのかまどのある
新鮮な魚貝類の炭火焼の店 カテリーナ
味は 今一番新しい地中海風……。
ワイングラスをかたむけながら
楽しいひとときを おすごし下さい。

MENU一例

| | |
|----------|--------|
| ムール貝のスープ | ¥ 700 |
| 魚貝サラダ | ¥1,200 |
| 伊勢エビ炭火焼 | ¥2,500 |
| 魚貝の炭火焼 | ¥2,000 |

関西テレビ横

カテリーナ

大阪市北区西天満6-4-10
ご予約・お問い合わせ
(06)311-4571

RITSUMEIKAN UNIVERSITÄT MÄNNERCHOR

★立命館大学メンネルコール第36回定期演奏会

1982.12.14 (火)PM6:30開演・京都会館第1ホール・全席自由 ¥700



- I. 朔太郎の四つの詩
 - II. シューベルト男声合唱曲より
 - III. 男声合唱組曲「隠岐四景」
 - IV. 男声合唱組曲「川よとわに美しく」
- 指揮：浦山弘三・片桐清実・尾関浩司
ピアノ：山本篤子
シンセサイザー 金森 務

主催・立命館大学メンネルコール連絡先・立命館大学メンネルコールBOX TEL (075)463-1131



(株)大阪フォト サービス カンパニー

〒550 大阪市西区江之子島1丁目5-17
TEL 06(443)7608(代表)

ステージの出来が、映えるコート

紳士服
イージーオーダー

司屋(株)

大阪マーチャндаイズマート11階
TEL 06-943-3100

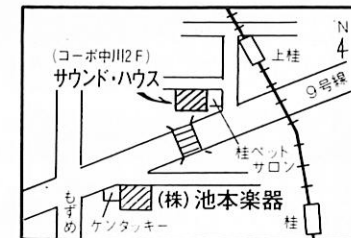
総合音楽教室

(株)池本楽器

SOUND HOUSE オープン!!

- ピアノ科 ■エレクトーン科 ■ギター科
- フルート科 ■クラリネット科 ■トランペット科
- ハープ科 ■声楽科 ■バイオリン科 ■サクソフォーン科
- その他特別講座 ■短期講師養成コースなど

〈喫茶ルーム もございますのでご利用下さい〉



音楽教室のお問い合わせ・お申し込みは

SOUND HOUSE …391-0931 ・(株)池本楽器 …391-2111

(西京区上桂三ノ宮町50-39コーポ中川2F)

楽器・楽譜のお問い合わせは

(西京区桂千代原町55)

Beati Mortui

片桐哲先生と大中寅二先生と同志社グリークラブ

同志社は1875年に創立された。「同志社英学校開業式」に先立ち、新島襄先生によって祈りが捧げられ、讃美歌が合唱された。こうして同志社の歴史は、祈りと歌で始められたのである。歌とはそもそも、人間が、その小さな存在に美や真理や愛などの永遠的なものとの接触を経験させられたとき、ことばか旋律を伴って奔り出るものであろう。祈りもまた同様である。とすれば、歌は人間の祈りを表現し、祈りは歌を伴う。少なくとも同志社の歴史においてはそうであった。

今世紀の初め、速水藤助、渡部守或両氏が本学学生として、宣教師の方々の指導の下に大いに合唱音楽の気運を高めていた。これを受けて男声合唱団を組織し、グリークラブと命名したのが神学部学生であった片桐哲先生である。片桐先生は、自ら指揮者となり部の運営責任も負い、文字通り創成期のグリークラブの大黒柱となられた。先生のもとに、音楽的にも思想的にも優れた学生が多く集まったが、その中には平賀徳造、岩村清四郎、錦織貞夫、柳島彦作、平田甫、浜田光雄など、やがてわが国の精神的指導者として活躍することとなる若者たちがいた。これらの気骨隆々自信満々の同輩たちを統率し、見事に同志社グリークラブの基礎を固められた先生の、音楽的才能の豊かさや人格識見の深さなどに、私たちは心からの敬意を禁じえない。

先生は、1913年に卒業後渡米留学されたが、当時の指揮者浜田光雄氏にかの地から、「目下の日本精神界の向上のためにも十分の助力をせらるべく、この点において切にキリスト教音楽の発達にも尽すいさべきこと」を奨めている。グリークラブ80年の歴史の礎を築かれた先生の指導理念は、まさに祈りの音楽の哲学なのであった。部室に掲げられているOB会寄贈の先生の肖像は、ひ孫のような現役たちにそのような哲学を日々語り続けている。

大中寅二先生は1920年の法学部御卒業である。在学中から恵まれた音楽的才能を発揮し、グリークラブ員、大学オルガニスト、ジュニアグリークラブ（ホザナクラブの前身）指揮者として演奏や作曲活動を華々しく展開された。その頃グリーには、水谷央、原忠雄、堀内清、湯浅永年、園川四郎、内田栄一、橋静雄氏らがいて、共に大正期グリークラブの黄金時代を形成したのである。

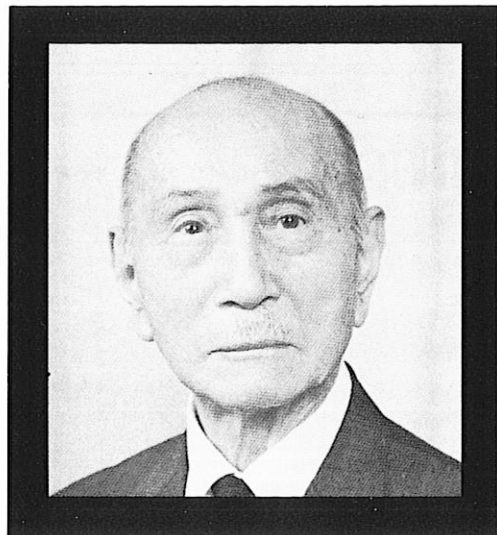
先生は書いておられる。「私より20年も前にグリークラブを創設した人達も勿論私と同じように喜びや誇りを持っておられたと思います…。そこに生まれるはつきりした伝統こそ私達の喜びであり誇りである。」(60年誌) この先生の喜び、誇りとされた伝統とは、片桐先生たちによって基礎づけられた祈りの音楽の伝統であり、大中先生によって、さらに発展させられたものであり、そして我々が今日まで継承して来た音楽である。グリークラブはこの伝統を一層深めることによって、両先生の期待と信頼に応えなければならないと私は思う。(1942年卒)

同志社グリークラブ顧問
同志社大学教授 遠藤 彰

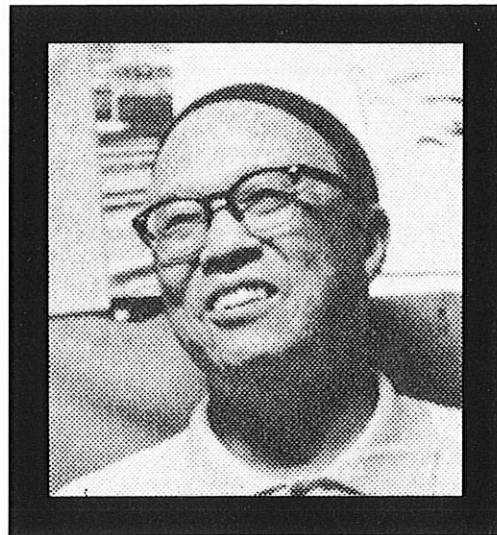
詩 23 篇

主はわが牧者なり、
われ乏しきことあらじ。
主はわれをみどりの野にふさせ、
いこいの汀にともないたもう。
主はわが魂を活かし、
御名のゆえをもて、我が正しき道にみらびきたもう。
たといわれ死のかげの谷をあゆむとも、
わがわいをおそれじ。

なんじ我と共にいませばなり、
なんじの^{いさ}答、なんじの杖、われをなぐさむ。
汝、わが仇のまえに
わがために宴をもうけ、
わが頭に油をそそぎたもう、
わが酒杯をあふるるなり。
わが世にあらんかぎり、かならず恵みと憐れと我にそいきたらん、
われはとこしえに主の宮に住まん。



故 片桐 哲 先生



故 大中寅二 先生

巨人はその道を走ってゆく

ハイドンのオラトリオ「天地創造」は、いうまでもなく、旧約聖書の創世記から作られたものだが、そのはじめに、ウリエルの歌うレシタティーヴに、こんな歌詩がある。

今や輝きに満ちて
太陽は光を放ちながら昇る
喜びに溢れた花婿
誇らかに楽しげな巨人は
その道を走ってゆく
そして、果しない大空は
聖なる歌をもって
御力を声高く知らせた

(中・後略)

私は、このレシタティーヴが好きだ、そして、これこそ正に片桐哲先生ではないか、と思うのです。

今夏、このオラトリオが、カラヤンの指揮で、8月18日、ザルツブルグの大ホールで演奏された。わざわざ聞きに行った、と言ったらウソになるが、今夏のザルツ行の目的のひとつに、「天地創造」があったことはたしかだ。しかも、この演奏には、いまヨーロッパで、若手テノールの第一人者といわれるアライザ(Francisco Araiza)がウリエル役で、このレシタティーヴをうたうのだから……。

私は、その美しい声で、静かに、しかも高々とうたわれる場面きたとき、本当に、先生のことを、いまアライザが歌ってくれている、という錯覚にとらわれたので

ある。
先生は、正に輝きにみちて、光を放ちながら天に昇っていった。そして、その巨人は、大空に向い、聖なる歌をもって、主の御力を声高く知らせたのだ。

片桐先生は、実に94才で天に昇られた。そして、その間に、同志社にグリークラブを創り、初代の指揮者となられた。同志社グリークラブに対する私の自慢のひとつは、そのことであつた。

四大学のグリークラブは、いずれもそれなりの長い歴史と伝統、そして、それぞれが誇るすばらしいハーモニーをもっている。しかし、その歴史の中で、初代の指揮者がなお現存している、という事実は、恐らく同志社だけだ、と、そのことを自慢のタネにしていたのだ。

たまたま、先生が長命だったから、と言ってしまうればそれまでだが、私はそう思いたくない。

同志社グリークラブに対する先生の大きな愛、願い、そして夢が、先生を94年間も、私たちに与えて下さったのだ、と信じ、かつ思いたいからだ。

その片桐先生が、1982年7月3日、ついに光輝きながら天に昇っていった。創世紀にあるように、巨人はいまもその道を走っている、と信じたい。

その知らせを受けた翌日、東京からかけつけた私は、はせ参じた多くのグリーメンとともに、心からレクイエムをうたい、先生の平安を祈った。本当に有難うございました、と叫びながら……。

同志社グリークラブOB会長 松本寛二

父大中寅二は本年4月19日、85才の生涯を全う致しました。その折には、同志社大学ならびにグリークラブ関係のかたがたより厚い御弔意をいただき、心より感謝いたしております。ほんとうにありがとうございました。

父について、そして父が私に語ったグリークラブ時代のことなどを書け、との御依頼を受け、大変戸惑ってしまいました。何しろ、およそ対話のなかった親と子の関係を58年もつづけてしまったので、そういった文章を書こうとしても、何ひとつ思い当るものがないのです。旧い友人のかたや仕事の上での関係のかたがたは、多分非常に強情でカンシャク持ちの短気な父を印象に残しておられることと思いますが、反面、妙にテレ屋なところもあり、特に、対ムスコという点では普通の御家庭では想像出来ないくらい、その面が強く表われていたようなのです。

それでも私のかすかな記憶では、昭和の初期、私がまだ小学校に入る前ごろには、グリークラブのかたがたが東京に演奏旅行に来られると、霊南坂教会を練習所に当てるためのお世話などをしていただいたようでした。しかしそんな時でも、さも面倒くさそうな態度をしてみせ、自分には好意なんてないのだという風なので、素直な人ではなかったことはたしかかなようです。あとで考えてみれば、そういった仕草のなかに自分を育んでくれたグリークラブへの情が、父なりに盛り込まれていたのではないかと、とも思えるのですが……。

父のいいところも少しは記すべきなのかもしれませんが、私もまたやはり父の血を引いたせいか、どうも余り素直にはなれないようで、これを読まれるかたがたに御不快な思いをおかけするのではないかと心配です。

父が同志社大学を出、グリークラブに席を置かせていただいたおかげで、同志社創立百周年記念には「祝歌」の作曲を、またグリークラブ創設60周年記念の委嘱曲として、男声合唱組曲「わが歳月」の作曲を、ムスコである私がさせていただいたことを光榮に思っておりますが、関係のみなさまへの感謝と共に、テレながら父にも感謝すべきかと、思う今日このごろです。

終わりにになりましたが、伝統あるグリークラブ第78回定期演奏会の各ステージがほんとうに充実したものでありますよう、心から祈り、一層の発展を願っております。

作曲家 大中 恩

| | | |
|-------------|--|------------------|
| 1982年 1月23日 | 第77回定期演奏会 | 京都会館第1ホール |
| 2月20日 | 第77回卒業生のためのフェアウェルコンサート | 同志社大学学生会館 |
| 3月4日 | レコーディング〜男声合唱組曲「冬の日の記憶」〜 指揮・福永陽一郎 | 池田アゼリアホール |
| 3月20・21日 | 同志社大学卒業式参列 | 同志社栄光館 |
| 3月26〜31日 | 春合宿 | 三重・伊勢 |
| 4月5・6日 | 同志社大学入学式参列 | 同志社栄光館 |
| 4月24日 | 対面式 | 京都教会 |
| 5月3日 | 関西六大学合唱連盟運動会 | 大阪城公園 |
| 5月9・10日 | 帝塚山大学コーラス部グローリアと合ハイ・合コン・ディスコ | エキスポランド・たよし・和蘭屋敷 |
| 5月29日 | イェール大学ウィッフェンブーフ合唱団とジョイントコンサート | 西陣織会館 |
| 5月30日 | 第19回京都合唱祭 | 京都会館 |
| 6月9日 | 県連ミュージックフェスティバル | 京都会館第2ホール |
| 6月20日 | 第31回東西四大学合唱演奏会 | 大阪フェスティバルホール |
| 6月29日 | ハーバード大学グリークラブ招待演奏会 | 同志社大学学生会館 |
| 7月3日 | 名誉顧問片桐哲先生 御避去 | |
| 7月4日 | 大学フェスティバル(京都大学部会) | 京都府立大学グラウンド |
| 7月18日 | 片桐哲先生 同志社女子大学大学葬 | 同志社栄光館 |
| 8月6日 | 出雲演奏会(夏季演奏旅行) | 出雲市民会館 |
| 8月8日 | 讃美礼拝 | 松山教会 |
| | 松山演奏会() | 松山市民会館中ホール |
| 9月4〜9日 | 夏合宿 | 信州・野尻湖 |
| 9月13日 | 府立北稜高校文化祭音楽鑑賞会 | 府立北稜高校 |
| 9月18日 | レコーディング〜男声合唱とピアノのための「ことばあそびうた II」〜 指揮・北村協一 ピアノ・久邇之宜 | 池田アゼリアホール |
| 9月23日 | 大谷女子大学合唱団と合コン | 梅田・うつのみ屋 |
| 9月25日 | メサイア結団式 | 同志社大学新岡別館 |
| 10月10日 | 神戸女学院大学コーラス部と合ハイ | 神戸・ポートピアランド |
| | 第7回京都府合唱連盟スポーツ大会 | 立命館大イ笠グラウンド |
| 10月30日 | NHK-FM「たのしいコーラス」放送 | NHK-FM |
| | 第31回東西四大学合唱演奏会より同志社「祈りの歌」他 | |
| 11月2日 | LPGAマツダジャパンクラシックレセプション参列 | 京都・都ホテル |
| 11月3日 | 大阪女子学園短期大学学園祭にて特別演奏会 | 大阪女子学園 |
| | 関西六大学合唱演奏会 | 大阪フェスティバルホール |
| 11月13日 | 兵庫県立北条高校音楽鑑賞会 | 兵庫県・加西市 |
| 11月19日 | '82ミキグループ南日本地区講演会出演 | 京都・国際会議場 |
| 11月23日 | 京都女子大学女声合唱団と合コン | 河原町のどっか |
| | 甲南女子大学コーラス部と合コン | 梅田のどっか |
| 11月27〜29日 | 強化合宿 | 滋賀・希望ヶ丘自然公園 |
| 12月4日 | 同志社クローバークラブ演奏会 | 大阪府立労働センター大ホール |
| 12月11日 | 第78回定期演奏会 | 大阪・ザ・シンフォニーホール |
| 12月22日 | 第18回全同志社メサイア演奏会 | 京都会館第1ホール |
| 12月25日 | EST-1開店1周年記念セレモニー出演 | 梅田EST-1 |
| 1983年 1月1日 | 朝日放送テレビ新春番組出演予定 | 朝日放送ABCホール |
| 1月7日 | 京都市交響楽団ニューイヤーコンサート「森の歌」に参加 | 京都会館第1ホール |
| 2月12日 | 第78回卒業生のためのフェアウェルコンサート | 大谷ホール |

同志社グリークラブ
第78回卒業生のためのフェアウェルコンサート

〈賛助出演〉
同志社クローバークラブ

1983・2・12(土) 5:30PM 開演
大谷ホール (入場無料)

| | | | | | |
|-----------|-------|--------|-------|--------------|-------|
| 顧問 | 遠藤 彰 | 幹事 | 諸江 修 | 学生指揮者 | 楠 敬也 |
| 技術顧問 | 福永陽一郎 | 外政 | 小田 尚紀 | 学生副指揮者 | 須藤 彰治 |
| 指揮者 | 富岡 健 | | 岡田 和弘 | Top P.L | 島中 達哉 |
| ヴォイストレーナー | 大久保昭男 | | 豊田 尚紀 | サブ | 西山 勲 |
| | | サブ | 日比 敏也 | Second P.L | |
| | | | 伊勢三十六 | サブ | 鈴木 典夫 |
| | | | 西尾 強志 | Baritone P.L | 土佐 易弘 |
| | | 内政 | 橋本 裕和 | サブ | 山岡 敏 |
| | | 会計 | 飯田 勝美 | Bass P.L | 佐藤 敏 |
| | | サブ | 河村 一良 | サブ | 藤本 和久 |
| | | | 中田 克之 | | |
| | | 演奏旅行 | 仲 貴司 | | |
| | | サブ | 中小路智一 | | |
| | | 資料OB担当 | 鋒山 琢磨 | | |
| | | サブ | 梶原 昌彦 | | |
| | | ステージ | 吉田 進次 | | |
| | | サブ | 久保田哲哉 | | |
| | | 文連常任 | 大嶋 誠司 | | |
| | | メサイア実行 | 長谷川恵一 | | |
| | | | 斎藤 睦彦 | | |
| | | | 佐々木 渉 | | |
| | | | 和田 秀樹 | | |

Top Tenor

| | |
|----------------|------------|
| 島中 達哉 (法・法律・4) | 大阪・上宮 校高 |
| 加古 立史 (文・文化・4) | 兵庫・宝塚 高 |
| 栗原 毅 (商・4) | 大阪・天王寺 高 |
| 楠 敏也 (法・法律・4) | 京都・同志社 高 |
| 西山 勲 (経・3) | 大阪・春日丘 高 |
| 斎藤 睦彦 (神・3) | 福島・福島 高 |
| 豊田 尚紀 (経・3) | 奈良・郡山 高 |
| 梶原 昌彦 (法・法律・2) | 熊本・済々 高 |
| 河村 一良 (商・2) | 福岡・福岡 校高 |
| 宮井 健 (工・工化・2) | 大阪・雲雀丘 高 |
| 森 知史 (工・工化・2) | 大阪・北野 高 |
| 佐々木 渉 (経・2) | 香川・高松西 高 |
| 山中 光 (商・2) | 広島・高陽 高 |
| 伊勢 恒介 (工・電気・1) | 大阪・PL学園 高 |
| 小林 正明 (法・法律・1) | 大阪・高槻 高 |
| 小杉 泰幸 (法・法律・1) | 北海道・室蘭 高 |
| 二宮 孝之 (経・1) | 兵庫・星 高 |
| 大畑 泰年 (工・機械・1) | 大阪・旭 高 |
| 尾池 智治 (法・政治・1) | 大阪・泉陽 高 |
| 斎藤 斎 (経・1) | 大阪・同志社香里 高 |
| 戸塚 欽也 (法・法律・1) | 静岡・浜名 高 |
| 山田 成彦 (経・1) | 神奈川・湘南 高 |

Second Tenor

| | |
|----------------|------------|
| 池田 英生 (経・4) | 京都・堀川 高 |
| 松井 謙之 (法・法律・4) | 大阪・清風 高 |
| 田中 哲夫 (文・文化・4) | 新潟・三条 高 |
| 上田 慎一 (工・機械・4) | 大阪・鳳 高 |
| 清端 利文 (文・文化・3) | 大阪・同志社香里 高 |
| 諸江 修 (文・文化・3) | 群馬・高崎 高 |
| 須藤 彰治 (商・3) | 大阪・同志社香里 高 |
| 鈴木 典夫 (文・社会・3) | 福島・福島 高 |
| 吉田 進次 (商・3) | 大阪・住吉 高 |
| 餅 一隆 (商・3) | 香川・三本松 高 |
| 日比 敏也 (経・2) | 愛知・大府 高 |
| 中小路智一 (法・法律・2) | 大阪・大教大付 高 |
| 篠原芳兵衛 (商・2) | 大阪・大和川 高 |
| 辻 透 (商・2) | 京都・洛北 高 |
| 福原 伸司 (工・機工・1) | 広島・井口 高 |
| 木下 勝 (法・法律・1) | 石川・星陵 高 |
| 小屋 文彦 (商・1) | 愛知・西尾 高 |
| 久保 行央 (経・1) | 大阪・同志社香里 高 |
| 中村 健史 (法・政治・1) | 京都・紫野 高 |
| 田口 雅一 (工・化工・1) | 兵庫・舞子 高 |
| 竹本 滋和 (法・法律・1) | 愛知・国府 高 |

Bass

| | |
|----------------|------------|
| 前田 洋孝 (商・4) | 東京・小山台 高 |
| 佐藤 敏 (経・4) | 北海道・滝川 高 |
| 里内 知己 (文・文化・4) | 滋賀・膳所 高 |
| 高沢 隆司 (文・社会・4) | 大阪・桜塚 高 |
| 薬師神重司 (経・4) | 愛媛・八幡浜 高 |
| 藤本 和久 (工・工化・3) | 奈良・奈良 高 |
| 橋本 裕和 (経・3) | 大阪・同志社 高 |
| 鋒山 琢磨 (文・社会・3) | 大阪・同志社香里 高 |
| 飯田 勝美 (法・法律・3) | 奈良・敵傍 高 |
| 松本 良太 (法・法律・3) | 京都・同志社 高 |
| 岡田 和弘 (文・社会・3) | 兵庫・三木 高 |
| 片岡 和彦 (経・2) | 奈良・小倉 高 |
| 久保田哲哉 (工・機工・2) | 福岡・小池 高 |
| 中西 宏 (文・2) | 奈良・上宮 高 |
| 中西 雅樹 (経・2) | 大阪・泉北 高 |
| 中田 克之 (法・政治・2) | 大阪・交野 高 |
| 西尾 強志 (文・社会・2) | 大阪・上宮 高 |
| 白井 幸彦 (法・法律・2) | 兵庫・福崎 高 |
| 高橋 圭二 (法・法律・2) | 香川・丸亀 高 |
| 田中光太郎 (経・2) | 佐賀・佐賀 高 |
| 和田 秀樹 (経・2) | 島根・益田 高 |
| 遠藤雄一郎 (工・電子・1) | 鳥取・米子 東高 |
| 加藤 栄嗣 (法・政治・1) | 鳥取・米子 東高 |
| 小西 正俊 (商・1) | 奈良・同志社香里 高 |
| 松浦 悟史 (文・社会・1) | 滋賀・東大津 高 |
| 田中紳一郎 (工・機械・1) | 大阪・住吉 高 |
| 植田 禎一 (法・法律・1) | 奈良・郡山 高 |

編集後記

気がついたら、定期演奏会……。マネージャーをやっておられた先輩がたからよく聞かされていたが、今年、自分たちがそのチーフになって、正にその通りになってしまったとつくづく思ったのです。ほんの少し前にフェアウェル・コンサートを催したと思っていたのに……。

今、ひとり、真夜中に、マーラーの第8シンフォニー(個人的に色々と思ひ出深い曲なのです。)が、微かに響く部屋で、定期に向けて出発してからの事を振り返ってみる。

1年生を迎えて定期に向けて出発したのが、秋の気配を半袖の腕に感じ始めたこの夏の終わり。今年は、12月初旬の演奏会であり、京都の地をはなれての定期、曲も難曲ぞろい、ということで、例年になくハードなスケジュールの中での練習、緊張感がややもすればくずれしてしまうようなつらい練習でした。1年生以下グリーメン全員がヒールコラいつつも必死になってグリークラブにすがりついていた。そのため、様々な問題がクラブ内に学年を越えて起っていました。酒と涙と怒りを混じえて真剣に話し合いながら、今にも喧嘩になりそうになりながらも、鳥将、先輩、同輩の下宿を徘徊し、一夜を明かすこともざらでした。練習が思うようにゆかず、真剣に悩む技術系の姿、影で一人で苦悶と闘っているグリーメンの姿もみました。でも、それだけ、みんながグリークラブの事を真剣に考えてくれる証しだと思います。

今夜も、11月3日の六連の時のように、きっと満足のゆく演奏会に出来ると、私は信じております。そして、御来場の皆様、これからも同志社グリークラブのことを宜しくお願い致します。皆様が私共に何時も目を向けて下さることがグリーメンの何よりも励みとなるのですから。

最後になってしまいましたが、編集にあたり、原稿お寄せ下さいました諸先生方、快く広告の掲載を承諾下さいました広告主の皆様、また、今年も初めの予定よりもパンフ作成が大変遅れてしまい、本当に大変な御迷惑をおかけ致しました中央印刷の根津社長、デザイン、レイアウトのアドバイスを色々して下さいました伊藤さん、その他の皆様、そしてグリーOBの諸氏にこの場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。本当に色々とありがとうございました。今後とも宜しく御教導下さいませようお願い申し上げます。

来年はヨーロッパ。やるっきゃないど〜。

(by すべてのデザイン考案者・外政T)



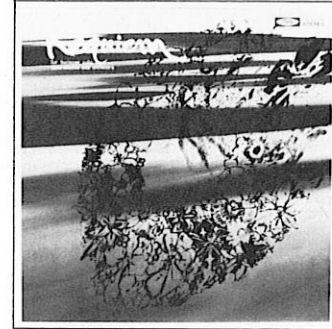
岡田 小田 豊田

素晴らしい音とハーモニーの東芝合唱シリーズ

現代合唱曲シリーズ 各¥2,300



堀口大学の詩による作品集
「月光とピエロ」
●TA-72068
①男声合唱組曲「月光とピエロ」清水脩作曲
②男声合唱組曲「ヴェニス生誕」(大中恩作曲)
③「月下の一群」フランスの詩による男声合唱曲集(南弘明作曲)
●指揮/北村協一、福永陽一郎 ●ピアノ/久遠之宜
●合唱/関西学院グリークラブ、東海メール・クラブ、早稲田大学グリークラブ



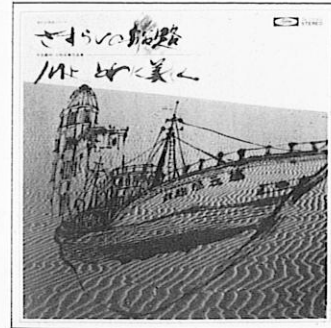
バリトン独唱、男声合唱及びオーケストラのための
「レクイエム」 三木 稔作曲
●TA-72076
●指揮/福永陽一郎
●バリトン独唱/山本健二
●合唱/早稲田大学グリークラブ
●演奏/東京アカデミック・ウィンド・オーケストラ



多田武彦作品集
「わがふるき日のうた」
「海に寄せる歌」
●TA-72077
■男声合唱組曲「わがふるき日のうた」(三好達治作詩)
■男声合唱組曲「海に寄せる歌」(三好達治作詩)
■砂上/仔羊/渡/この浦に/鶴どり/既に鶴は/他
●指揮/福永陽一郎 ●合唱/同志社グリークラブ



萩原英彦作品集
混声合唱組曲**「白い木馬」**
「深き淵より」
●TA-72082
①混声合唱組曲「白い木馬」(ブッシュ孝子作詩)一陣の強い風がぶどうの枯葉を吹き飛ばし/他
②混声合唱組曲「深き淵より」(ゆきやなぎれい作詩)想い出になりにきれない想い出/雷の音/他
●指揮/福永陽一郎 ●合唱/浅井敬章
●合唱/合唱団京都エコー ●ピアノ/久遠之宜



平吉毅州・三枝成章作品集
男声合唱のための組曲**「さすらいの船路」**
男声合唱組曲**「川よとわに美しく」**
●TA-72083
①男声合唱のための組曲「さすらいの船路」(片岡輝作詩 平吉毅州作曲)竜骨よ やすらかに/さんざめく生命(いのち)/よみがえりの時はいつ
②男声合唱組曲「川よとわに美しく」(米田栄作詩 三枝成章作曲)秋道童子/永遠の川/荒廃に立ちて/静寂の川/川よとわに美しく
●指揮/北村協一 ●合唱/関西学院グリークラブ 立教大学グリークラブ ●ピアノ/久遠之宜 ●シンセサイザー/向谷 実



三木 稔・間宮芳生作品集
合唱による風土記**「阿波」**
合唱のためのコンポジション第三番
●TA-72086
合唱による風土記「阿波」
たいしめ(鯉鱈)/妻打ち/もちつき(餅搗)/他
合唱のためのコンポジション第三番
鱈/鯉鱈(かっこ)/引き念儀
●指揮/北村協一
●合唱/関西学院グリークラブ/早稲田大学グリークラブ

1983年1月21日発売予定
多田武彦作品集 中原中也の詩による
男声合唱組曲「中原中也の詩から」「在りし日の歌」「冬の日の記憶」 ●TA-72091
新実徳英作品集 ●TA-72092
①女声合唱組曲「ことばあそびうた」②男声合唱組曲「ことばあそびうたII」
③混声合唱組曲「幼年連禱」
池辺晋一郎作品集 ●TA-72093
①女声合唱組曲「六つの子守唄」②混声合唱組曲「冬にむかって」

1983年2月21日発売予定
大中 恩作品集 ●TA-72094
混声合唱組曲「島よ」/女声合唱組曲「愛の風船」「新しいこどものうた」より
三善 晃作品集 ●TA-72095
混声合唱組曲「嫁ぐ娘に」/女声合唱組曲「三つの抒情」「麦藁帽子」
湯山 昭作品集 ●TA-72096
①男声合唱とピアノのための組曲「ゆうやけの歌」②合唱組曲「鮎の歌」③混声合唱とピアノのためのバラード「コタンの歌」

ひとつの製品を完成させるにあたり、各分野の専門スタッフが、全力を傾注しています。正確に、スピーディに、しかも、密度の高いものを目指し、ひとつの輪は、今日も明日もたゆまず動きつづけます。

いま、何かをお求めなら

合唱団の良きアドバイザー。

印刷を通じて気さくなおつきあい



中央印刷株式会社

本社・企画室 ☎542 大阪市南区谷町6丁目6番7号 TEL. 06 (763) 2632(代)
事務所・工場 ☎593 堺市鳳東町5丁487-56 TEL. 0722 (73) 1151(代)



グリークラブ・アルバム(V)
●TA-72074 ¥2,300
フィンランディア(シベリウス)/やまびこ(ラッソ)/いとしのマドンナ(ラッソ)/アヴェ・マリア(アルカデルト)/聖史曲(チャイコフスキー)/剣と壺琴(ヘーガー)/冬のセレナーデ(サン・サーンス)/O Holy Night(アダム)/もみの木(ドイツ民謡)/他全16曲
●指揮/北村協一、福永陽一郎 ●合唱/慶応義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団、同志社大学、早稲田大学、関西学院大学、各グリークラブ



グリークラブ・アルバム(VI)
●TA-72075 ¥2,300
Swing Low Sweet Chariot(黒人聖歌)/Set Down Servant(黒人聖歌)/I've Got Six Pence/ Homeward Bound/ Erie Canal/ Rolling Home (以上シーシャントー)/ 童太節(宮城県民謡)/島原の子守唄(宮崎一彦)/ 音戸の舟唄(広島県民謡)/他全16曲
●指揮/北村協一、福永陽一郎 ●合唱/関西学院大学、早稲田大学、同志社大学各グリークラブ、慶応義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団

グリークラブ・アルバム(I)
●TA-60050 ¥2,000
からたちの花/中国地方の子守唄/この道/鶯の啼ろ/あわて床屋/青蛙(以上山田耕筰)/砂山(中山普平)/ 姿やお美(本居長也)/柳河(多田武彦)/ 通かな夜に(磯部 俊)/ 水夫のセレナード(エアーソン)/ いざ起て戦人よ(グラナハム)/他全22曲
●指揮/北村協一、福永陽一郎 ●合唱/慶応義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団、同志社大学、早稲田大学、各グリークラブ

グリークラブ・アルバム(III)
●TA-60088 ¥2,000
最上川舟唄/大島節/ソーラン節/大坂子守唄/五つ木の子守唄/おてもやん/かぜ唄/ちんちんちどり/出船/夕やけ小やけ/七つの子/夏は来ぬ/海/赤とんぼ/村祭り/雷のふる町を/童の光
●指揮/北村協一、福永陽一郎 ●合唱/慶応義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団、早稲田大学、同志社大学、関西学院大学、上智大学、各グリークラブ

グリークラブ・アルバム(II)
●TA-60051 ¥2,000
キリエ・エレイソン(デュオウバ)/アニュス・デイ(グノー)/レクイエム・エテルナム(コルネリウス)/主は我が牧者なり(グラナハム)/主の祈り(ケルネル)/菩提樹(シュベルト)/野ばら(ウェルナー)/ローレイ(ジルヘル)/他全24曲
●指揮/福永陽一郎、北村協一 ●合唱/慶応義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団、同志社大学、早稲田大学、関西学院大学、各グリークラブ

グリークラブ・アルバム(IV)
●TA-60089 ¥2,000
年の別れ/春を待つ/雨/アカシアの径/見上げてごらん夜の星を/遠くへ行きたい/涙くんサヨナラ/君といつまでも/夜のうた/Gaudeamus/Heilig/Die Nacht/オレーグ公の歌/他全18曲
●指揮/北村協一、福永陽一郎 ●合唱/慶応義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団、関西学院大学、立教大学、上智大学、同志社大学、早稲田大学、各グリークラブ